

アジア史

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、14世紀から17世紀にわたるアジアの歴史、特に海を通じた歴史（海域アジア史）への学習を通じて、アジア地域の歴史や文化がどのように展開・形成されてきたのかを考えることを目指します。また、アジアの歴史の中でもいわゆる東アジア諸地域（日本・中国・朝鮮・琉球・台湾）の歴史を学習し、我々が普段、見聞きしている文化や歴史とつなげて諸地域の交流の歴史を読み解いていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	アジア史とは何か？
3	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ①
4	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ②
5	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ③
6	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ①
7	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ②
8	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ③
9	小テスト
10	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ①
11	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ②
12	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ③
13	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ①
14	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ②
15	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ③
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

授業では、講師による板書をメモし、積極的な授業への参加を期待します。

【評価方法】

①出席点（適宜出席をとります）、②小テスト、③期末テスト
①～③および授業態度を加味して評価を行います。

【テキスト】

適宜、授業において講師より資料を配布します。

【参考文献】

①上田信『海と帝国』講談社、2005年
②羽田正・小島毅編『海から見た歴史』東京大学出版会、2013年

アジア史 I

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、14世紀から17世紀にわたるアジアの歴史、特に海を通じた歴史（海域アジア史）への学習を通じて、アジア地域の歴史や文化がどのように展開・形成されてきたのかを考えることを目指します。また、アジアの歴史の中でもいわゆる東アジア諸地域（日本・中国・朝鮮・琉球・台湾）の歴史を学習し、我々が普段、見聞きしている文化や歴史とつなげて諸地域の交流の歴史を読み解いていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	アジア史とは何か？
3	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ①
4	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ②
5	海から見たアジア史－朱元璋と足利義満 - ③
6	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ①
7	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ②
8	海から見たアジア史－永楽帝と鄭和 - ③
9	小テスト
10	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ①
11	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ②
12	海から見たアジア史－倭寇と鉄砲 - ③
13	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ①
14	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ②
15	海から見たアジア史－清朝と鄭成功 - ③
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

授業では、講師による板書をメモし、積極的な授業への参加を期待します。

【評価方法】

①出席点（適宜出席をとります）、②小テスト、③期末テスト
①～③および授業態度を加味して評価を行います。

【テキスト】

適宜、授業において講師より資料を配布します。

【参考文献】

①上田信『海と帝国』講談社、2005年
②羽田正・小島毅編『海から見た歴史』東京大学出版会、2013

アジア社会文化論 I

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中国は歴史的に沖縄と深い関わりあいをもってきた国である。また、近代になって沖縄が日本に組み込まれてきた歴史、日本の近代、さらには21世紀のアジアおよび世界を考えるうえで、とても重要な対象である。本講義では、地理、歴史、宗教・思想、社会変化、現代生活といったさまざまなトピックから多面的に迫ることで、「巨大な隣人」についての理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中国の概要——概要・基礎データ
3	中国の歴史（1）——華夷秩序と王朝の交代劇
4	中国の歴史（2）——二人の「末代皇帝」、溥儀と毛沢東
5	中国語の世界（1）——漢語・漢字の歴史と「中国人」
6	中国語の世界（2）——中国語入門
7	中国社会の構造（1）——親族関係
8	中国社会の構造（2）——人間関係、社会関係
9	映像鑑賞——中国（漢族）の習俗・宗教世界
10	中国の思想と宗教（1）——中国の祭日、儒教
11	中国の思想と宗教（2）——仏教、道教、風水
12	中国の思想と宗教（3）——民俗宗教の世界
13	現代中国の現状と課題——政治・経済、民族問題
14	映像鑑賞——現代中国の現実：「激流中国」・「農民工」
15	まとめ——中国文化と現代社会
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30％）、テスト（70％）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのリアクション・ペーパーの提出を求める。また、学期末には講義内容にかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

講義の際に適宜紹介する。

アジア社会文化論Ⅱ

担当教員 津波 高志

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジア社会文化論Ⅲ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

In this course students are introduced to Asian culture through the eyes of a particular ethnic group. The social and cultural characteristics are brought into focus through interaction with other cultures. This course is conducted in Japanese, but English text materials are utilized.

【授業の展開計画】

This course focuses on Asian culture and society through the lens of the Hmong people of Laos and Northern Thailand. Content areas covered include:

Hmong myths and legends
The Hmong in historical perspective
Hmong clans and kinship
Hmong village organization
Hmong annual cycle of events
Hmong arts and crafts
Hmong religious beliefs
Hmong agriculture
Illness and curing among the Hmong
The Secret War
The Hmong diaspora
Cultural adaptation of Hmong immigrants

【履修上の注意事項】

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

【評価方法】

授業参加 - 50%
レポート - 50%

【テキスト】

TBA

【参考文献】

- Fadiman, Anne. *The Spirit Catches You and You Fall Down*. 1997. Farrar, Straus, and Giroux
- Symonds, Patricia V. *Calling in the Soul*. 2004. University of Washington Press
- 鈴木正嵩. *ミャオ族の歴史と文化の動態*. 風響社. 2012

アジア社会論

担当教員 河村 雅美

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、アジア社会におけるグローバルイゼーションを主なテーマとする授業です。その中で沖縄はどのような位置にあるのかも考えていきたいと思います。フィリピンの女性の海外出稼ぎからみる家族の中の男性/女性の役割、タイの「オカマ（カトゥーイ）」と称される人々の位置づけからみえるタイ社会、アジア内で国境を超える卵子提供や代理出産などの問題をとおして、アジアの現在の動きを常に自分たちとのつながりを考えながら学ぶ機会としたいと思います。映像やドキュメンタリーを用いる予定です。

【授業の展開計画】

1テーマ、3-4回ずつのセッションを設けて授業を進めていきます。まず、イントロダクションでは、アジア（ここでは東南アジア）についての歴史・背景知識や、これからアジア社会を見る時に必要な視点を学んでいきます。その後、以下のとおり、アジアの海外出稼ぎの問題、性（トランスジェンダー）の問題、国境を超える代理母問題などのセッションをとおして、アジア社会とそこに見るグローバルイゼーションを学んでいきます。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	1 イントロダクション (1)背景知識としての東南アジア
3	(2) 「地図」「地名」からみるアジア
4	(3) “文化”が違うとは何か？ を考える
5	2 人が国境を越えて移動するというとは？
6	～フィリピン映画『母と娘』/を題材に
7	〃
8	3 タイの「オカマ」トランスジェンダーからみえるアジア社会
9	ドキュメンタリー『性を超えた性』やタイ映画『ビューティフル・ボーイ』（タイを題材）に
10	〃
11	4 アジアの「いのち」の移動を考える
12	メディカルツーリズム、卵子提供や代理母などの国境を超える医療の問題
13	などから アジアのグローバルイゼーションを考えてみる。
14	総括・レポートの書き方講座など
15	予備日
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

- オリエンテーションで、最終的なシラバスや評価方法を説明しますので出席してください。
- 留学生も大歓迎します。

【評価方法】

授業への参加姿勢（40点）、期末レポート（60点）を評価対象とします。以下を総合して評価します。
 [授業への参加姿勢]授業に対するリアクション・ペーパーの提出。
 [期末レポート]期末にレポートを課します。詳細は講義の中で提示します。

【テキスト】

授業では、レジュメを配布します。

【参考文献】

授業の中でテーマ毎に紹介します。

アジアの社会と文化 I

担当教員 津波 高志

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジアの社会と文化Ⅱ

担当教員 前田 一舟

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は半期を通してアジアのなかの沖縄文化を探ることを目指し、周辺諸国との文化交流の痕跡をひも解きながら来歴の新しい異民族の習俗がどのように混入し、変容したのかを比較民俗学（文化人類学）的に理解することが目的である。

【授業の展開計画】

この授業は講義により構成する。講義では、文化の翻訳者や理解者に求められる自文化と異文化について基本的な考え、基礎的な知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を題材に取り扱う。

週	授 業 の 内 容
1	アクション映画のなかのアジア像（文化情報論①）
2	ウルトラマンと民俗学（文化情報論②）
3	『精霊の守人』と文化人類学（文化情報論③）
4	沖縄と中国福建省の猫の葬法（環境文化論①）
5	アジアと沖縄のジュゴン（環境文化論②）
6	アジアの便所と沖縄のフール（環境文化論③）
7	中国の蘇鉄と南島文化（環境文化論④）
8	東アジアの船と沖縄文化（海洋文化論①）
9	東アジアの船漕ぎ競争と沖縄文化（海洋文化論②）
10	東アジアの改葬と沖縄の両墓制（祖先祭祀①）
11	東アジアの墓と沖縄の墓（祖先祭祀②）
12	東アジアの原発と沖縄（災害論）
13	窪徳忠の中国文化と南島（文化受容論）
14	渋沢敬三の民族学とアジア（民具学の提唱）
15	宮本常一のアジア・沖縄の旅（経世済民）
16	レポート（論述）

【履修上の注意事項】

講義の進行によっては博物館に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。

【評価方法】

本学の学部履修規定第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行なう。なお、採点の基準は、講義への出席に60点、レポート及び発表等40点とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

講義中ではテーマにまつわるレジュメや論文、資料等を配布する。また、ビデオやパワーポイント等も活用して情報の提供を図る。

【参考文献】

国分直一『日本民族文化の研究』慶友社1970年
 窪徳忠『中国文化と南島』第一書房1981年
 比嘉政夫『沖縄からアジアが見える』岩波書店1999年

アジアの社会と文化Ⅲ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

In this course students are introduced to Asian culture through the eyes of a particular ethnic group. The social and cultural characteristics are brought into focus through interaction with other cultures. This course is conducted in Japanese, but English text materials are utilized.

【授業の展開計画】

This course focuses on Asian culture and society through the lens of the Hmong people of Laos and Northern Thailand. Content areas covered include:

Hmong myths and legends
The Hmong in historical perspective
Hmong clans and kinship
Hmong village organization
Hmong annual cycle of events
Hmong arts and crafts
Hmong religious beliefs
Hmong agriculture
Illness and curing among the Hmong
The Secret War
The Hmong diaspora
Cultural adaptation of Hmong immigrants

【履修上の注意事項】

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

【評価方法】

授業参加 - 50%
レポート - 50%

【テキスト】

TBA

【参考文献】

- Fadiman, Anne. *The Spirit Catches You and You Fall Down*. 1997. Farrar, Straus, and Giroux
- Symonds, Patricia V. *Calling in the Soul*. 2004. University of Washington Press
- 鈴木正嵩. *ミャオ族の歴史と文化の動態*. 風響社. 2012

アジア比較社会論

担当教員 河村 雅美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、アジア社会におけるグローバルイゼーションを主なテーマとする授業です。その中で沖縄はどのような位置にあるのかも考えていきたいと思います。フィリピンの女性の海外出稼ぎからみる家族の中の男性/女性の役割、タイの「オカマ（カトゥーイ）」と称される人々の位置づけからみえるタイ社会、アジア内で国境を超える卵子提供や代理出産などの問題をとおして、アジアの現在の動きを常に自分たちとのつながりを考えながら学ぶ機会としたいと思います。映像やドキュメンタリーを用いる予定です。

【授業の展開計画】

1テーマ、3-4回ずつのセッションを設けて授業を進めていきます。まず、イントロダクションでは、アジア（ここでは東南アジア）についての歴史・背景知識や、これからアジア社会を見る時に必要な視点を学んでいきます。その後、以下のとおり、アジアの海外出稼ぎの問題、性（トランスジェンダー）の問題、国境を超える代理母問題などのセッションをとおして、アジア社会とそこに見るグローバルイゼーションを学んでいきます。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	1 イン트로ダクション (1)背景知識としての東南アジア
3	(2)「地図」「地名」からみるアジア
4	(3)“文化”が違うとは何か？ を考える
5	2 人が国境を越えて移動するということとは？
6	～フィリピン映画『母と娘』/を題材に
7	〃
8	3 タイの「オカマ」トランスジェンダーからみえるアジア社会
9	ドキュメンタリー『性を越えた性』やタイ映画『ビューティフル・ボーイ』（タイを題材）に
10	〃
11	4 アジアの「いのち」の移動を考える
12	メディカルツーリズム、卵子提供や代理母などの国境を超える医療の問題
13	などから アジアのグローバルイゼーションを考えてみる。
14	総括・レポートの書き方講座など
15	予備日
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

-オリエンテーションで、最終的なシラバスや評価方法を説明しますので出席してください。
-留学生も大歓迎します。

【評価方法】

授業への参加姿勢（40点）、期末レポート（60点）を評価対象とします。以下を総合して評価します。
[授業への参加姿勢]授業に対するリアクション・ペーパーの提出。
[期末レポート]期末にレポートを課します。詳細は講義の中で提示します。

【テキスト】

授業では、レジユメを配布します。

【参考文献】

授業の中でテーマ毎に紹介します。

アジア文化概論

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジア文化概論Ⅰ

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「アジアの時代」が叫ばれて久しい。しかし、私たちは「アジア」のことをどれほど理解しているだろうか？ 私たちが住む日本・沖縄の社会・文化的特徴を明らかにするためにも、また「アジアに開かれた沖縄」の未来を構想する上でも、周辺諸地域との比較は欠かせない。本講義では、東アジア、東南アジア、オセアニアの諸社会・文化にかんする基本的な知識の習得を基礎としながら、そこにみられる差異と共通点について講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス ――なぜいま「アジア」を学ぶのか？
2	「アジア」とは何か？
3	中国の社会と文化（1） ――概要／歴史／民族
4	中国の社会と文化（2） ――親族／宗教
5	朝鮮半島の社会と文化（1） ――概要／歴史
6	朝鮮半島の社会と文化（2） ――親族と社会制度
7	日本の社会と文化 ――「文明の生態史観」と「タテ社会論」
8	台湾の社会と文化（1） ――概要／歴史／民族
9	台湾の社会と文化（2） ――〈原住民族〉の歴史と現在
10	東南アジアの社会と文化（1） ――概要／歴史
11	東南アジアの社会と文化（2） ――諸世界宗教の土着化
12	東南アジアの社会と文化（3） ――フィリピンとインドネシア
13	オセアニアの社会と文化（1） ――大洋世界の基層文化
14	オセアニアの社会と文化（2） ――ハワイの歴史・文化・現在
15	まとめ ―― アジア・太平洋的視座の重要性
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（20%）、テスト（40%）、レポート（40%）
授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末のテストならびにレポートの成績・内容を加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

講義の際に適宜紹介する。

演習

担当教員 及川 高

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を構成し執筆する力を養うことを目的とする。前期には専門論文のレビュー、後期には研究報告をゼミ形式で行う。各回に報告者を立て、自分で作成したレジюмеに基づいてプレゼンを実施し、出席者との討論を行う。また夏期休業期間中にフィールドワーク実践を課す。後期の研究報告はそれに基づいた事例報告を行い、文献調査から自分自身によるデータの収集へと結び付けていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション	17	後期イントロダクション
2	講義－1；文献リストを作る	18	講義－4；図表の作り方と使い方
3	講義－2；文献をレビューする	19	ゼミ
4	講義－3；フィールドワークにつなげる	20	ゼミ
5	ゼミ	21	ゼミ
6	ゼミ	22	ゼミ
7	ゼミ	23	ゼミ
8	ゼミ	24	ゼミ
9	ゼミ	25	ゼミ
10	ゼミ	26	ゼミ
11	ゼミ	27	ゼミ
12	ゼミ	28	ゼミ
13	ゼミ	29	ゼミ
14	ゼミ	30	ゼミ
15	ゼミ	31	講義－5；まとめ・論文に着手する
16	フィールドワーク心得		

【履修上の注意事項】

- ・自分が報告者となっている会には責任を持って出席すること。

【評価方法】

- ・プレゼン、レジюме、議論への積極的参加などを総合的に鑑みて評価する。

【テキスト】

- ・レジюме及び論文のコピーを用いる

【参考文献】

- ・上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館

演習

担当教員 澤田 佳世

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、文献輪読と社会調査を通じて、沖縄を中心とする《現代アジア太平洋地域における社会問題と社会生活のダイナミクス》を探究していく。〈他者理解を通じて社会の仕組みを解明する〉ための社会学の視点と方法を学び、各自の興味にもとづいた研究テーマと「問い」を見出していくことを課題とする。

並行して、現代の社会問題（とくに、ジェンダー、人口、家族・リプロダクション、移民・多文化、民族、女性と軍事・平和など）を経験的に理解するために、関連する社会的活動にふれながら、国内外の他大学や団体と交流する機会を設定していく予定である。

【授業の展開計画】

【前期】沖縄・アジア太平洋地域の社会問題/社会現象をジェンダー・民族・階級などの観点から分析した文献を中心に、学生全員で輪読するテキストを選択し、学生グループによる内容報告と考察、問題点の発見・整理を行い、学生間での議論を繰り返しながら問題意識を深めていく。

【夏期休暇】前期の学びをふまえ、夏季休暇中に、各自の興味に基づいて研究テーマを選定してレポートを作成、休暇明けに報告する。

【後期】学生による個人報告を軸とし、各自の興味に基づいて、4年次の卒業研究で取り組むテーマと「問い」を見出し深めていくプロセスとする。「常識」や「ステレオタイプ」の自明性と排他性に疑問を投げかけ、他者理解を通じて様々な「社会問題」を発見すること、そして各自の関心に応じて研究テーマと「問い」を設定し、社会調査による文献・資料データの収集と分析を経て、自分で「自分の答え」を見つけ出し、自分自身が納得のいく卒業論文を完成させるための重要な準備段階となる。

【備考】前期・休暇中・後期を通じて、関連する社会的活動や国内外の学生や団体と交流し、現代の社会問題について考える機会を享受することが望まれる。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業への出席、文献報告、個人報告、討論への参加状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

担当教員（および学生）が授業で紹介し、学生全員で選定する。

【参考文献】

テーマに応じて毎回の授業で適宜紹介する。

演習

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、前期にレポート・論文執筆の方法、および環境学の視点と方法を学びながら、各自の問題意識を掘り下げ、自らの問いをもつことを目指す。その問いをもとに各自が卒業論文につながりうるテーマを設定し、調査計画をたてる。調査計画にもとづいて調査を実施し、その経験をもとに、後期には調査データの整理法を習得し、調査報告を経てゼミ論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	後期ガイダンス
2	レポート・論文執筆の方法①	18	調査データ整理法①
3	レポート・論文執筆の方法②	19	調査データ整理法②
4	レポート・論文執筆の方法③	20	調査データ整理法③
5	環境学関連文献の講読①	21	調査報告①
6	環境学関連文献の講読②	22	調査報告②
7	環境学関連文献の講読③	23	調査報告③
8	環境学関連文献の講読④	24	調査報告④
9	環境学関連文献の講読⑤	25	補足調査①
10	調査方法①	26	補足調査②
11	調査方法②	27	ゼミ論文作成①
12	テーマ設定と調査計画①	28	ゼミ論文作成②
13	テーマ設定と調査計画②	29	ゼミ論文作成③
14	テーマ設定と調査計画③	30	ゼミ論文作成④
15	テーマ設定と調査計画④	31	ゼミ論文の提出
16	調査計画書の提出とコメント		

【履修上の注意事項】

本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。

【評価方法】

出席状況・演習への参加姿勢（50%）、発表・調査報告・ゼミ論文（50%）を総合し評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

演習時に随時、紹介する。

演習

担当教員 石垣 直

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は、「社会」や「文化」に対する問題意識を明確にし、文献研究、現地調査、論文作成などを通じて、その問題意識を深化させることにある。演習の前期には、社会・文化人類学ならびにアジア関連の著作・論文を輪読し、各ゼミ生にレジュメ作成・発表をさせ、ゼミ生全体で議論を行う。さらに、夏休み中に各自（あるいは小グループ）で実地調査を行い、後期にはゼミ生間で調査成果を発表し議論を深める。最終的には各ゼミ生が調査・研究成果に基づいた論文を作成し、これをゼミ全体としてまとめる。

【授業の展開計画】

現実的に調査地域は沖縄本島および周辺離島に限定されるだろうが、できる限りゼミ生の興味・関心を尊重し、テーマとしては「アジア」や「沖縄」にかんするものであればとくに制限を設けない。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	データ整理・論文作法（1）
2	レポート・学術論文作法（1）	18	データ整理・論文作法（2）
3	レポート・学術論文作法（2）	19	データ整理・論文作法（3）
4	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	20	調査成果発表（1）
5	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	21	調査成果発表（2）
6	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	22	調査成果発表（3）
7	アジア・人類学関連文献の輪読（4）	23	調査成果発表（4）
8	アジア・人類学関連文献の輪読（5）	24	中間発表（1）
9	テーマ設定と文献研究（1）	25	中間発表（2）
10	テーマ設定と文献研究（2）	26	補足調査・論文作成（1）
11	テーマ設定と文献研究（3）	27	補足調査・論文作成（2）
12	テーマ設定と文献研究（4）	28	補足調査・論文作成（3）
13	テーマ設定と文献研究（5）	29	ゼミ論文仮提出
14	調査計画の策定（1）	30	論文発表・検討会
15	調査計画の策定（2）	31	（予備日）
16	（予備日）		

【履修上の注意事項】

通常の講義科目とことなり、演習では各ゼミ生のより一層の主體的参加が求められる。文献研究やゼミでの発表・質疑応答を通じて、（卒業論文のテーマも視野に入れて）各自の問題意識を深化させてほしい。

【評価方法】

出席・授業への参加姿勢（50%）、調査成果・論文評価（50%）。出席および演習への参加姿勢を重視する。その上で、調査成果や論文の完成度合いに応じて総合的に評価する。

【テキスト】

演習のなかで適宜紹介。

【参考文献】

演習のなかで適宜紹介。

演習

担当教員 田名 真之

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

2年次での基礎演習、実習を踏まえ、さらに一步踏み込んで南島歴史の世界を学ぶ。具体的には、前期前半は資料に関する知識、資料を扱う(読み解く)技術、歴史理論の向上を図るため論文を講読する。前期後半は事前に提示した課題から各自テーマを選択し、レポート作成と発表を行い、全員で批評、討論を行う。後期は各自でテーマを定めて、調査研究を行い、その成果を発表し、全員で批評、討論することを通して、課題や方向性を確認し、他のテーマについても学ぶ場とする。

【授業の展開計画】

前期

1. 史資料と文献について
2. 史料の扱い方、読み方、歴史理論
3. 論文講読
4. レポート作成・発表－全員での批評、討論

後期

1. 各自のテーマ設定(ゼミ論作成に向けて)
2. 調査研究
3. 成果の発表－全員での批評、討論

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の年間スケジュール説明	17	後期、ゼミ論(自由テーマ)の作成について
2	史料(基本文献・論文)講読－割り当て	18	史料講読－輪読 割り当て
3	同上－小論テーマ提示－各自選択	19	ゼミ論テーマの発表
4	同上	20	史料講読 同上
5	同上－各自、小論テーマ発表	21	同上
6	史料検索、閲覧－図書館郷土資料	22	同上
7	史料講読	23	同上
8	同上	24	同上
9	同上	25	ゼミ発表(各自20分)・質疑、応答
10	同上	26	同上
11	同上	27	同上
12	小論発表(各自20分)、質疑・応答	28	同上
13	同上	29	史料講読
14	同上	30	同上
15	同上	31	ゼミ論提出
16	小論提出		

【履修上の注意事項】

論文講読や各自の調査研究発表では、担当者だけでなく、全員が参加して授業を進めること。ここで設定したテーマが卒論へ繋がることもあるはずなので、自身の発表、また全員での批評、討論を通じてテーマへの理解が深まるよう努めること。

【評価方法】

出席状況と討論など授業参加の姿勢、テーマへの取り組み、発表内容など総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介。

演習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、2年次の基礎演習および実習の体験と成果をふまえつつ、平和研究の視点と方法を学び、各自が取り組むテーマを発見していくことを課題とする。テキストの輪読を通して知的好奇心を高め、各自が掘り下げていくテーマを見出していくことが重要である。それと並行して、平和研究に関連する社会的な活動に関心を持ち、その実践の場に参加してみるという姿勢を持てるように、いくつかの機会を設定していく予定である。

【授業の展開計画】

前期は全員で輪読するテキストを選択し、内容報告や問題点の発見を繰り返しながら、問題意識を深める。それをふまえて、夏期休暇中に各自がレポートを作成し、休暇明けに報告する。
後期は個別報告を中心としながら、4年次にかけて取り組むテーマを各自が見出していくプロセスとする。その際に、問題意識を共有するグループ作業を取り入れることも検討していく。
また前期・後期を通して、平和研究に関連する活動について情報を集め、その取り組みに参加できる機会があれば積極的に足を運ぶようにしたい。

【履修上の注意事項】

各自が問題意識をもって参加すること。

【評価方法】

出席と参加姿勢によって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習

担当教員 上原 静

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

発掘調査に参加し、調査技術の修得に努めるとともに、前年分の調査報告書を作成し、発掘調査の学術的意義について認識を深める。報告書の作成に際し、琉球諸島の先史古代文化を熟知する必要がある、そのため県内各地の考古学調査の成果を各自分担で整理発表し、知識を深める。

【授業の展開計画】

全員が遺物の整理（図表等の作成）を行う。遺跡の概況、調査経過等のほかの遺物の記述を行う。上記を通して報告書の作成を実地に学ぶ。各自分担して県内各地の先史文化を調査研究し、発表を行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化財保護委員会『埋蔵文化財発掘調査の手引き』国土地理協会 1967

沖縄近代史 I

担当教員 宮城 晴美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

かつて琉球王国だった沖縄。明治の「琉球処分」を経て日本の国民国家建設に組み込まれていく過程で、沖縄県民は「日本人」化されるために、どのような歴史を歩まされてきたのだろうか。本講義は、結果的に日米の地上戦の犠牲になった、近代日本における沖縄の位置づけを学ぶことで、今日の沖縄の社会・政治・経済・文化等の現状を照射する手立てとしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	琉球王国から沖縄県へ
3	琉球処分前後の動乱
4	旧慣温存期の沖縄の統治機構 ― 県令政治の実相 ―
5	教育の普及と「同化」政策 ― 風俗改良運動 ―
6	〃
7	沖縄の貧困と移民・出稼ぎ ― 「ソテツ地獄」の沖縄 ―
8	貧困・差別と抗する人々
9	「内なる日本化」 ― 改姓改名、標準語励行運動 ―
10	国家総動員体制の確立 ― 15年戦争とファシズムへの道
11	アジア・太平洋戦争下の沖縄
12	沖縄戦の基礎的学習 ― 映像にみる沖縄戦
13	日本軍「慰安婦」制度と「集団自決」にみる戦争と性
14	映像鑑賞「遅すぎた聖断～検証・沖縄戦への道」(RBC)
15	映像鑑賞「沖縄 よみがえる戦場～読谷村民2500人が語る地上戦」(NHK)
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

パワーポイントを中心に、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でもわからない(わかりにくい)ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパー(授業内容への質問、感想、意見など)の提出、レポート、テストによって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

- ・『沖縄県史 各論編5 近代』沖縄県教育委員会、2011年/金城正篤他『沖縄県の百年』山川出版社、2005年
- ・その他授業に関連させて随意紹介

沖縄近代史Ⅱ

担当教員 宮城 晴美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、琉球王国の解体後、日本の近代国民国家建設に組み込まれた沖縄の女性たちが、琉球の独自文化を排除し、日本化を包摂していくなかで、天皇制国家を支える「良妻賢母」として戦争に突入していく過程を検証する。とりわけ、女性が近代沖縄の社会変革のターゲットにされたことから、ジェンダーの視点で考察していきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	琉球王国時代の女性 ―ノロ制度・御内原―
3	ジェンダーと性 ―公娼制度下の辻遊廓―
4	「家庭」の生成と女性の国民化 ―戸籍法・民法施行、風俗改良運動―
5	〃
6	女たちの移民・出稼ぎ
7	第一波フェミニズム思想―世界的潮流のなかで―
8	「内なる日本化」と抗する女たち ―第二波風俗改良運動―
9	〃
10	明治沖縄の女性群像
11	軍事主義とジェンダー
12	戦争と性 ―日本軍「慰安婦」制度について
13	映像にみる沖縄戦
14	「集団自決」と戦場レイプの論理
15	終わらない戦争「沖縄戦・心の傷」
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でわからない（わかりにくい）ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパー15点（授業内容への質問、感想、意見など）、レポート35点、テスト50点によって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

・那覇市女性室他編『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』那覇市、1998／宮城栄昌『沖縄女性史』沖縄タイムス社、1967／その他、授業に関連させて随時紹介

沖縄社会入門

担当教員 鳥山 淳(8回)、澤田佳世(8回)

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向けて、その背景にある構造的な問題について考察することをテーマとする。前半の講義では、「沖縄戦から70年」の間に起こってきた問題と現在との関連を理解することを目的とする。後半の講義では、社会学の重要な分析概念に引きつけながら、沖縄社会の特徴を理解することを目的とする。それらを通して、沖縄社会について思考するために必要とされる基本的な問題意識を身に付けていくようにしたい。

【授業の展開計画】

- 1週目 講義全体のガイダンスと前半のテーマの概要説明
- 2週目 沖縄にとっての70年① 占領と復帰
- 3週目 沖縄にとっての70年② 基地と社会
- 4週目 沖縄にとっての70年③ 国家のはざままで
- 5週目 傷跡と向き合う① 戦後補償のなかの壁
- 6週目 傷跡と向き合う② 戦場体験と証言
- 7週目 傷跡と向き合う③ 慰霊と継承
- 8週目 後半のテーマの概要説明
- 9週目 「うちなーんちゅ（沖縄人/琉球人）」と「日本人」
- 10週目 沖縄から見える国家・民族/エスニシティ・アイデンティティ
- 11週目 「沖縄イメージ」を考える
- 12週目 沖縄と労働
- 13週目 沖縄と家族
- 14週目 沖縄と女性/ジェンダー
- 15週目 沖縄と移民/オキナワン・ディアスポラ
- 16週目 学期末試験

【履修上の注意事項】

社会文化学科での学びにとって必須とされる基礎的な視点を身につけようという意識をしっかりと持って受講すること。

【評価方法】

次の方法で評価し、前半・後半の合計点で成績を決定する。
前半の講義 (50点満点) 参加姿勢 15点、レポート 35点
後半の講義 (50点満点) 学期末試験 50点

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で提示する。

沖縄前近代史 I

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近世琉球の社会と構造について考察する。首里王府の行政文書（翻刻史料）を用いて、往時の社会について見ていく。翻刻された候文がある程度読めて、理解できるよう指導する。史料は導入で「書状」「法令」などを読み、後に『琉球王国評定所文書』から異国船来航関係の文書を講読する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	史料概要
3	史料講読一講義
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 //
9	史料講読一個々に割り当てての読み、内容報告
10	史料講読 //
11	史料講読 // 小テスト
12	史料講読 //
13	史料講読 // 小テスト
14	史料講読 //
15	史料講読 //
16	テスト

【履修上の注意事項】

1. 古文書（候-そうろう-文）を中心に漢文史料（主に読み下し文）にも触れる。
2. 遅刻しないこと。質問は積極的に。
3. 前、後期通して履修することが望ましい。

【評価方法】

学期末の試験と適宜の小テスト、出席状況、受講態度で評価

【テキスト】

関連資料のプリントを配布

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

沖縄前近代史Ⅱ

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近世琉球王国の社会とその構造について考察する。具体的には導入で古文書2, 3点を読んで後、前期に引き続き、『琉球王国評定所文書』を読む。王府関連の古文書(候文、原文書) 翻刻文書を読むことを通して往時の社会と人々の生活を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	講読史料の概要
3	史料講読 — 講 義
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 一個々に割り当てて、読みと内容報告
9	史料講読 //
10	史料講読 // 小テスト
11	史料講読 //
12	史料講読 // 小テスト
13	史料講読 //
14	史料講読 // 小テスト
15	史料講読 //
16	テスト

【履修上の注意事項】

1. 古文書(そうろう文—主に釈文)を中心に漢文史料(主に読み下し文)にも触れる。
2. 遅刻はしないこと。質問は積極的に。
3. 前、後期通して履修することが望ましい。

【評価方法】

学期末試験と適宜の小テストの結果及び出席、受講態度で総合的に評価する

【テキスト】

関連資料のプリントを配布する

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

沖縄文化入門

担当教員 石垣 8 回、及川 7 回

対象学年 1 年

単位区分 必

準備事項

備考 石垣 8 回、新任 B 7 回

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の主眼は、沖縄の民俗文化に関する基礎的な理解を深めることにある。具体的には、地理・歴史、言語、生業、衣・食・住、村落、家族・親族、誕生・成長儀礼、婚姻、葬送儀礼と墓、祭祀と神役などの諸トピックを取り上げる。

【授業の展開計画】

ガイダンスは石垣および及川が、第 2～9 回の講義は及川が、第 10～16 回は石垣が担当する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	沖縄の言語と周圏論仮説
3	柳田國男——「海南小記」と「海上の道」
4	沖縄の自然とその利用
5	コメの文化とイモの文化
6	海人と水産資源
7	黒糖と干しナマコ
8	衣・食・住の伝統
9	聖なる首里と俗なる那覇
10	琉球弧の地理と歴史
11	親族と人間関係——門中制度の成立と広がり
12	祖先祭祀——「祖先」と「子孫」との関係性
13	年中行事——琉球弧の人々の宗教・世界観
14	女性の霊的優位——オナリ信仰
15	誕生・成長・結婚・長寿儀礼
16	「沖縄文化」の歴史と現在

【履修上の注意事項】

私語厳禁。積極的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席ならびに授業参加姿勢をもとに、総合的に評価する。（担当教員によってはレポートあるいは筆記試験を課す場合がある）

【テキスト】

特になし。（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

沖縄文化論特講 I

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、沖縄文化に関する民俗学的テーマについてとりあげる。沖縄の生活文化（衣食住、人生儀礼、年中行事など）には、どのような意味があるのか、また、どのような変遷過程を経て今日のような状況にあるのかについて、受講生が理解を深めることを目指す。映像資料も積極的に活用したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス
2	村の秩序と掟：不倫女性の制裁事件を中心に
3	久高島：「女が男を守る島」
4	久高島巡検
5	家と門中
6	糸満の門中：「墓を同じくする人々」
7	沖縄の祭祀と女性：ウナイ神・妻と姉妹・女性神官制度
8	女性の帰属・母系制・アミ族
9	野のカウンセラーとしてのユタ・「ユタ科定」
10	沖縄の民家と世界観
11	建築儀礼と自然観・八重山諸島の建築儀礼
12	柳田国男の民俗学と沖縄
13	国家体制と民俗－久高島のイザイホウ再考－
14	綱引きの民俗
15	盆に来る霊・古琉球の盆行事をめぐって
16	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況及びテスト（又は課題レポート）により評価する。

【テキスト】

赤嶺政信『シマの見る夢－おきなわ民俗学散歩』ボーダーインク

【参考文献】

沖縄平和学

担当教員 玉城 福子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義の視点を学び、社会の様々な事象を分析することを通じて、これまで「当たり前」だと思っていた身近な出来事の中にある差別や暴力に気づき考える力を身につけることを目的とする。題材として、沖縄の歴史や暴力の問題（具体的には、DV、沖縄戦時の日本軍「慰安所」制度、戦後の米兵による性暴力など）を取り上げる。

【授業の展開計画】

第一回目のイントロダクションでは、本講義の目的や扱うテーマについて確認する。また、評価の方法や試験の形式についても説明する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	ジェンダー：基礎
3	ジェンダー：歴史と発展
4	ジェンダー：応用
5	事例を通じて考える①：デートDV
6	セクシュアリティ：基礎
7	セクシュアリティ：歴史と発展
8	セクシュアリティ：応用
9	事例を通じて考える②：日本軍「慰安婦」制度
10	ゲストスピーカーによる講演会（詳細は授業内で指示する）
11	植民地主義：基礎
12	植民地主義：歴史と発展
13	植民地主義：応用
14	事例を通じて考える③：米兵による性暴力
15	講義のまとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

受講生の数によっては、授業のスケジュールや評価方法を変更する可能性がある。

【評価方法】

出席30%、試験70%をもとに総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

関口久志、2009年、『性の“幸せ”ガイドー若者たちのリアルストーリー』エイデル研究所。

本橋哲也、2005年、『ポストコロニアリズム入門』岩波書店。

シンシア・エンロー、2006年、『策略ー女性を軍事化する国際政治』岩波書店。

家族社会学

担当教員 -具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。

【授業の展開計画】

- 01 ガイダンス、家族研究の展開
- 02 定常型社会と現代家族
- 03 家族とコミュニティ
- 04 生と死と老い
- 05 社会史からみた家族
- 06 ヴィクトリア朝時代と近代家族
- 07 日本型近代家族の生成
- 08 近代の産物としての位牌継承慣行型家族
- 09 戦後の日本の社会変動と家族
- 10 戦後の沖縄の社会変動と家族
- 11 守姉
- 12 家族システムとダブルバインド
- 13 アクションと家族
- 14 機能不全家族
- 15 家族の再構築
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、家族研究の展開
02. 定常型社会と現代家族
03. 家族とコミュニティ
04. 生と死と老い
05. 社会史からみた家族
06. ヴィクトリア朝時代と近代家族
07. 日本型近代家族の生成
08. 近代の産物としての位牌継承慣行型家族
09. 戦後の日本の社会変動と家族
10. 戦後の沖縄の社会変動と家族
11. 守姉
12. 家族システムとダブルバインド
13. アクションと家族
14. 機能不全家族
15. 家族の再構築
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に読み解く力をつける。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス
02. 家族を読み解く理論①
03. 凶像から家族を読み解く①
04. 凶像から家族を読み解く②
05. 家族を読み解く理論②
06. 家族を読み解く理論③
07. 社会変動と家族①
08. 社会変動と家族②
09. 家族を読み解く理論④
10. 家族を読み解く理論⑤
11. 家族を読み解くレッスン①
12. 家族を読み解くレッスン②
13. 家族を読み解くレッスン③
14. 家族を読み解くレッスン④
15. 家族を読み解くレッスン⑤
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが力になります。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

環境開発論

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、環境と開発を捉える視点と方法を学び、改めて私たちにとって「環境」とは何か、「開発」とは何かを問うていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	環境と開発を捉える視点と方法
3	民族生態学
4	祖先に捧げるブタが生態系を維持する
5	映像鑑賞
6	環境保護運動と環境人類学
7	鉱山開発、先住民、環境権
8	ハザードとリスク
9	人口増加と環境破壊
10	生物多様性と健康
11	映像鑑賞
12	沖縄の環境／開発—ブタから考える（1）
13	沖縄の環境／開発—ブタから考える（2）
14	沖縄の環境／開発—ブタから考える（3）
15	総括
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況・リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

タウンゼント, パトリシア 2004 『環境人類学を学ぶ人のために』岸上伸啓・佐藤吉文訳、世界思想社。

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 15週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境法

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題は公害から生活環境問題、更に将来世代の持続可能な発展を求める地球規模の問題へ拡大しています。環境法とは、環境の質を社会的に望ましい状態にするための法システムの総称です。つまり、現在および将来の環境の質の状態に影響を与える関係主体の意思決定を社会的望ましい状態の実現に向けたためのアプローチに関する法、および、環境に関する紛争処理に関する法律です。

【授業の展開計画】

本講義では、環境法に係るこれまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を学びながら、環境法に関する諸課題について理解を深め、問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としています。

第1回	講義概要説明
第2～3回	環境法の目的
第4～5回	環境法の原則（1）
第6～7回	環境法の原則（2）
第8～9回	環境法の原則（3）
第10～12回	環境問題の性質に応じた解決のためのアプローチ・手法
第13～14回	環境公害訴訟
第15回	まとめ
第16回	期末試験

授業中に教員がトピックに関する演習課題を提示し、受講生が回答を提出することがある。

【履修上の注意事項】

受講生と相談の上、授業の内容や進行を一部変更することがある。

【評価方法】

出席・演習課題・期末試験により評価します。

【テキスト】

随時資料を配布する。

【参考文献】

① 畠山武道、北村喜宣、大塚直（2007）『環境法の入門』（日本経済新聞出版社）、② 北村喜宣（2009）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）、③ 交告尚史 他（2012）『環境法入門 第2版』（有斐閣アルマ）、その他 適宜案内する。

外国語資料講読演習 I

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに社会・平和領域の学生を対象としている。本演習では、社会や平和に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会学の基礎テキストの講読 (1)
3	社会学の基礎テキストの講読 (2)
4	社会学の基礎テキストの講読 (3)
5	社会学の基礎テキストの講読 (4)
6	社会学の基礎テキストの講読 (5)
7	社会学の基礎テキストの講読 (6)
8	復習
9	平和学の基礎テキストの講読 (1)
10	平和学の基礎テキストの講読 (2)
11	平和学の基礎テキストの講読 (3)
12	平和学の基礎テキストの講読 (4)
13	平和学の基礎テキストの講読 (5)
14	平和学の基礎テキストの講読 (6)
15	復習
16	試験

【履修上の注意事項】

英和辞書（電子辞書でも可）を持参すること。

【評価方法】

出席状況・授業態度（30%）と試験（70%）を総合し評価する。

【テキスト】

テキストは、必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

関連する重要な文献は、適宜紹介する。

外国語資料講読演習 I

担当教員 タゲラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The objective of this class is to develop comprehension of academic readings of original materials written in English.

【授業の展開計画】

In additions to lecturing by the instructor, in each class students present translations of assigned materials to the class. Once presented, translations are compiled using an online wiki. Vocabulary items must be added to the online class glossary, which is then accessible by all other students in the class.

【履修上の注意事項】

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

Active participation is essential in this course. In-class presentations account for the largest part of final evaluations.

【評価方法】

発表 - 25%

課題 - 25%

中間テスト - 25%

期末テスト - 25%

【テキスト】

TBA

【参考文献】

電子辞典

外国語資料講読演習 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科専門科目のうち異文化理解科目として位置づけられている。異文化理解科目は「語学能力を向上させつつ、比較文化的視点の育成をめざす」ために設置されているため、本講義では、英語で書かれた専門文献の精読をおこない、受講生の正確な英語読解能力の向上を目的とする。なお、同名科目が3クラス開講されているが、本講義は考古・先史領域、歴史領域の受講生を対象とするので、考古学・歴史学の方法論に関する文献を用いることとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・小テスト
2	テキストの輪読①
3	テキストの輪読②
4	テキストの輪読③
5	テキストの輪読④
6	テキストの輪読⑤
7	テキストの輪読⑥
8	中間試験
9	中間試験の返却、解説／テキストの輪読⑦
10	テキストの輪読⑧
11	テキストの輪読⑨
12	テキストの輪読⑩
13	テキストの輪読⑪
14	テキストの輪読⑫
15	テキストの輪読⑬
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期のあいだに数回、理解程度の把握のためにワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞典（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- ④ 文法に自信のない者は、高校レベルの文法書を用意し、復習しておくこと。
- ⑤ 出席は、毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国語資料講読演習Ⅱ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語資料講読演習Ⅱ

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに社会・平和領域の学生を対象としている。本演習では、社会や平和に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会学の専門テキストの講読（1）
3	社会学の専門テキストの講読（2）
4	社会学の専門テキストの講読（3）
5	社会学の専門テキストの講読（4）
6	社会学の専門テキストの講読（5）
7	社会学の専門テキストの講読（6）
8	復習
9	平和学の専門テキストの講読（1）
10	平和学の専門テキストの講読（2）
11	平和学の専門テキストの講読（3）
12	平和学の専門テキストの講読（4）
13	平和学の専門テキストの講読（5）
14	平和学の専門テキストの講読（6）
15	復習
16	試験

【履修上の注意事項】

英和辞書（電子辞書でも可）を持参すること。

【評価方法】

出席状況・授業態度（30%）と試験（70%）を総合し評価する。

【テキスト】

テキストは、必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

関連する重要な文献は、適宜紹介する。

外国語資料講読演習Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、学科専門科目のうち異文化理解科目として位置づけられている。異文化理解科目は「語学能力を向上させつつ、比較文化的視点の育成をめざす」ために設置されているため、本講義では、前期の講義の正課を踏まえて、英語で書かれた専門文献の精読をおこない、受講生の正確な英語読解能力のさらなる向上を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス／テキストの輪読①
2	テキストの輪読②
3	テキストの輪読③
4	テキストの輪読④
5	テキストの輪読⑤
6	テキストの輪読⑥
7	テキストの輪読⑦
8	中間試験
9	中間試験の返却、解説／テキストの輪読⑧
10	テキストの輪読⑨
11	テキストの輪読⑩
12	テキストの輪読⑪
13	テキストの輪読⑫
14	テキストの輪読⑬
15	テキストの輪読⑭
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期のあいだに数回、理解程度の把握のためにワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞典（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- ④ 出席は、毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、必要な部分を印刷して配布する。なお、前期の講義とは異なるテキストを利用する予定である。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国語資料講読演習A I

担当教員 末吉 重人

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。

【授業の展開計画】

第1回 シラバスの説明と発表順の決定

第2回 末吉がオーギュスト・コントとフランス革命について説明

第3回以降 学生による発表～第15回まで(デュルケム、マルクス、ウェーバー、パーソンズ、マートン、ポストモダンの思想家たち等)

第16回 試験

【履修上の注意事項】

講義中のどのタイミングでの質問も大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。

【評価方法】

前期は個人発表の(40点)、期末テスト(40点)を行う。
出席点を20点とし、合計で評価する。

【テキスト】

印刷物を配布し、テキストとする。

【参考文献】

外国語資料講読演習 A I

担当教員 安良城 米子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

平和、文化そして環境問題に関する文献の基礎的な用語を学びながらリーディングのスキルが身に付けられるようにする。英文を読むという行為が、ただ単に文字を追いながら受動的に情報を受け取るだけでなく、書かれた文章を理解するためには知的枠組みが重要である。その知的枠組みの強化も図りつつ進める。個別またはグループの共同学習を通して平和、文化そして環境問題を習得する楽しみを味わってほしい。そして、英語を読む習慣を身に付けて学習を積み上げていく助けとなるよう興味を持てる内容の教材を提供する。

【授業の展開計画】

<前期・外国語資料講読演習 A I >

前期では英語を楽しんで読むことから始めたい。同時に基礎的語彙、語句、慣用句などしっかりと見につけることを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	
2	Class
3	Class
4	Class
5	Education
6	Education
7	Education
8	Education
9	Education
10	Feminism
11	Feminism
12	Feminism
13	Health and Age
14	Health and Age
15	Health and Age
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など、周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁。
英語の辞書を持参すること。

【評価方法】

出席状況、授業姿勢、小テスト、そして期末試験を総合して評価する。
出席・授業姿勢 (40%)、小テスト (30%)、期末試験 (30%)

【テキスト】

『Life and Society in Modern Britain』（現代イギリスの暮らしと文化）英宝社 を使用する。

【参考文献】

その都度、授業で紹介する。

外国語資料講読演習AⅡ

担当教員 末吉 重人

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを学生が担当して翻訳発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。

【授業の展開計画】

第1回 分担ページの決定

第2回 四つの社会学的視点（機能主義、フェミニズム、紛争主義、相互行為主義）の説明

第3回以降 担当の発表とコメント～第15回まで（家族、教育、経済、政府、健康、貧困、民族的少数派、高齢者、男女、性行動、ドラッグ、犯罪、都市化、人口、環境、格差、戦争等から各自選択）

第16回 テストかペーパー提出

【履修上の注意事項】

講義中のどのタイミングでの質問も大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。

【評価方法】

後期は発表（40点）、期末ペーパーor試験（小論40点）を課す。
出席点を20点とし、合計で評価する。

【テキスト】

James W Coleman & Donald Clessey, 'SOCIAL PROBLEMS' (New York, Harper & Roe, Publications, 1999) - 図書館に指定文献として置いておくので、それを各自でコピーして使用すること。

【参考文献】

外国語資料講読演習 A II

担当教員 安良城 米子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

平和、文化そして環境問題に関する文献の基礎的な用語を学びながらリーディングのスキルが身に付けられるようにする。英文を読むという行為が、ただ単に文字を追いながら受動的に情報を受け取るだけではなく、書かれた文章を理解するためには知的枠組みが重要である。その知的枠組みの強化も図りつつ進める。個別またはグループの共同学習を通して平和、文化そして環境問題を習得する楽しみを味わってほしい。そして、英語を読む習慣を身に付けて学習を積み上げていく助けとなるよう興味を持てる内容の教材を提供する。

【授業の展開計画】

＜後期・外国語資料講読演習 A II＞

前期の基礎的文献の講読を継続。専門用語を理解・整理すると同時に英語を読む習慣を保ち学習を積み上げていく助けとなるよう適時に小テストを実施する。

週	授 業 の 内 容
1	Religion
2	Religion
3	Religion
4	Love & Marriage
5	Love & Marriage
6	Love & Marriage
7	Enviroment
8	Enviroment
9	Enviroment
10	Immigration & Race
11	Immigration & Race
12	Immigration & Race
13	Ireland
14	Ireland
15	Ireland
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など、周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁。
英語の辞書を持参すること。

【評価方法】

出席状況、授業姿勢、小テスト、そして期末試験を総合して評価する。
出席・授業姿勢 (50%)、小テスト (30%)、期末試験 (20%)

【テキスト】

『Life and Society in Modern Britain』（現代イギリスの暮らしと文化）英宝社 を使用する。

【参考文献】

その都度、授業で紹介する。

外国語資料講読演習B I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The objective of this class is to develop comprehension of academic readings of original materials written in English.

【授業の展開計画】

In additions to lecturing by the instructor, in each class students present translations of assigned materials to the class. Once presented, translations are compiled using an online wiki. Vocabulary items must be added to the online class glossary, which is then accessible by all other students in the class.

【履修上の注意事項】

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

Active participation is essential in this course. In-class presentations account for the largest part of final evaluations.

【評価方法】

発表 - 25%

課題 - 25%

中間テスト - 25%

期末テスト - 25%

【テキスト】

TBA

【参考文献】

電子辞典

外国語資料講読演習B I

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科文化コース3年次対象の必修科目であり、とくに歴史学・考古学を専攻する学生を対象としている。卒業論文作成にあたり、外国語の論文や資料を利用することは今や当然のことだが、外国語専門資料を正確に読解する能力が不足している学生が多いのが現実である。そこで、本講義では、歴史学・考古学の方法論に関わる英語の専門文献の精読をおこない、受講生が英和辞典を用いることで、正確な英文読解ができるようにさせることを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・小テスト
2	テキストの輪読①
3	テキストの輪読②
4	テキストの輪読③
5	テキストの輪読④
6	テキストの輪読⑤
7	テキストの輪読⑥
8	中間試験
9	中間試験の返却、解説／テキストの輪読⑦
10	テキストの輪読⑧
11	テキストの輪読⑨
12	テキストの輪読⑩
13	テキストの輪読⑪
14	テキストの輪読⑫
15	テキストの輪読⑬
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期間に数回、レポート代わりのワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞書（同機能の電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- ④ 文法に自信のない者は、高校レベルの文法書を用意し、復習しておくこと。
- ⑤ 出席は毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、テキストは必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国語資料講読演習 B II

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語資料講読演習BⅡ

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科文化コース3年次対象の必修科目であり、とくに歴史学・考古学を専攻する学生を対象としている。卒業論文作成にあたり、外国語の論文や資料を利用することは今や当然のことだが、外国語専門資料を正確に読解する能力が不足している学生が多いのが現実である。そこで、本講義では、歴史学・考古学の方法論に関わる英語の専門文献の精読をおこない、受講生が英和辞典を用いることで、正確な英文読解ができる能力を、前期以上に向上させることを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、テキストの輪読①
2	テキストの輪読②
3	テキストの輪読③
4	テキストの輪読④
5	テキストの輪読⑤
6	テキストの輪読⑥
7	テキストの輪読⑦
8	中間試験
9	中間試験の返却／テキストの輪読⑧
10	テキストの輪読⑨
11	テキストの輪読⑩
12	テキストの輪読⑪
13	テキストの輪読⑫
14	テキストの輪読⑬
15	テキストの輪読⑭
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期の中に数回、レポート代わりにワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞書（同機能の電子辞書も可）を必ず持参すること。
- ④ 文法に自信のない者は、高校レベルの文法書を用意し、復習しておくこと。
- ⑤ 出席は毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、前期とは異なるテキストを使用し、必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国平和研究事情

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界各国の様々な戦争や紛争は米ソの冷戦に密接に結びつけられていると思われていたが、冷戦が終わっても、新しい平和の時代は実現されなかった。かえって、戦争や民族紛争が増える傾向がある。この授業では海外の研究者が様々な観点から見た戦争や民族紛争を分析、主な学説、理論を検討する。

【授業の展開計画】

- * 冷戦以前の民族紛争の概要
 - * 冷戦以降の民族紛争の概要
 - * 紛争力学、紛争解決、と紛争予防
 - * ソ連崩壊後の民族紛争
 - * 環境・文化・構造的暴力
 - * 移民タイプの少数民族と紛争
 - * 先住民タイプの少数民族と紛争
 - * 未開社会における暴力・紛争・戦争
 - * 平和運動の比較研究
 - * ヨーロッパの平和運動（ノルウェー、デンマーク、イギリス、ドイツ）
 - * アメリカの平和運動（ベトナム反戦運動、反核運動）

【履修上の注意事項】

ディスカッションの時間に積極的な授業参加が不可欠。
LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

【評価方法】

レポート - 20%
発表と授業参加 - 80%

【テキスト】

TBA

【参考文献】

- ・岡本三夫・横山正樹 編、平和学の現在、1999、法律文化社。
- ・新聞、雑誌、インターネットから収集した資料。

考古学概論

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

考古学の学問的特質について理解し、考古学的なモノの見方考え方を学ぶ。授業では、考古学の歴史、基礎理論および研究素材となる対象物と研究方法について紹介する。あわせて、日本の考古学研究の成果について解説する。

考古学の学問的特質についての知識を習得することを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	考古学の定義と研究領域
3	考古学の歴史（1）欧米における考古学の歩み
4	考古学の歴史（2）日本における考古学の歩み
5	考古学の歴史（3）沖縄における考古学の歩み
6	型式学について
7	層位学について
8	絶対年代と相対年代
9	発掘調査について
10	遺物と遺構
11	旧石器時代
12	縄文時代
13	弥生時代
14	歴史時代（1）
15	歴史時代（2）
16	テスト

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

テストを評価対象とする。

【テキスト】

基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。

【参考文献】

田中琢・佐原真1993年『考古学の散歩道』岩波新書。小林達雄2007年『考古学ハンドブック』新書館。菊池徹夫2013年『はじめての考古学（あさがく選書4）』朝日学生新聞社。

考古学概論Ⅱ

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学の基本的なものの見方、考え方、理論を学び、また、発掘調査と得られた資料の整理を通して、歴史文化の復元過程を概説する。多様化し精緻化する現代考古学の状況を概説する。

【授業の展開計画】

- 1、考古学（定義、目的、考え方）
- 2、考古学の歩み（考古学の発達史①）
- 3、考古学の歩み（考古学の発達史②）
- 4、ものの形と時間（時代・時期区分）
- 5、ものの広がりと集団（文化圏）
- 6、道具の用途と機能（目的をもって変化する道具）
- 7、考古学の調査（陸地、水中、上空からの多様な調査と記録）
- 8、資料と整理（考古学資料の整理から分析まで）
- 9、先史考古学（形質人類学、地質学、岩石学、古生物学研究領域との融合）
- 10、歴史考古学（文献史学、金石文学、美術史、城郭研究領域との融合）
- 11、環境考古学（自然遺物、DNA、寄生虫などの研究領域との融合）
- 12、動物考古学（動物骨、魚貝類研究領域との融合）
- 13、植物考古学（植物遺体、プラントオパール、脂肪酸分析研究領域との融合）
- 14、民俗考古学（民族誌、民具研究領域との融合）
- 15、沖縄県立博物館展示構成、内容等の解説見学

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。遅刻、欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

テスト、課題レポートの内容。

【テキスト】

毎回、4～6枚の資料を配付する。

【参考文献】

随時、内容に合わせて紹介する。

考古学特殊講義 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

考古学特講 I

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学はモノから歴史を復元する学問である。授業では、遺構論として「建物跡」と「石造建造物」を取り上げ、遺物論では「土器」「出土銭貨」を取り上げる。琉球列島の考古学の基礎的な研究や最新の研究について解説する。また社会論として「グスクと集落」の研究を通して歴史復元を行う作業を紹介する。

考古資料の見方と研究方法を理解し、考古資料について説明し分析する力を身につける。

【授業の展開計画】

遺跡見学等見学を1回予定。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	考古学的発見と研究について
3	建物跡の発掘の実際
4	建物跡の復元と検証
5	石垣等土木技術の見方・調べ方
6	土器の製作
7	土器研究の方法
8	土器の見方と報告書の読み方
9	土器型式と編年
10	出土銭貨研究の方法
11	出土銭貨で復元する貨幣の歴史
12	グスクの研究
13	グスクと集落と社会
14	補足
15	レポート提出
16	

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。なお、受講者自身の関心事をなるべく反映させたいので、事前に調べ、授業に積極的に参加・発言することを推奨する。

【評価方法】

出席、レポートを評価対象とする。

【テキスト】

授業では、要旨と各テーマに沿って関連する研究論文等を配布する。また、基本的に講義形式で行い、なるべく遺物などの実物資料に直接触れる講義を予定。他にも、実際の遺跡調査等のスライドを用いた授業を行う。

【参考文献】

課題に合わせて適宜紹介する。

考古学特講Ⅱ

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本国内で行われる発掘調査の多くは、行政発掘と呼ばれる行政機関が実施する発掘調査である。このため埋蔵文化財保護行政の担い手の多くが考古学的知識を有する専門員（技師）によって担われている。授業では、埋蔵文化財の発掘調査の実例に即して解説し、沖縄における各行政機関等の取り組みを中心に紹介する。

考古学と文化財保護政策の基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

行政機関が実施する発掘調査現場の見学を1回予定する

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文化財保護行政とは
3	埋蔵文化財について
4	いろいろな文化財
5	発掘調査（1）発掘調査の計画
6	発掘調査（2）調査の方法
7	発掘調査（3）記録の作成
8	資料整理について
9	実測図の作成と製図
10	報告書の作成
11	遺跡と遺物の公開と活用
12	モノの観察と表現の方法
13	考古資料の撮影
14	遺跡調査を取り巻く社会環境と支援組織
15	レポート提出
16	

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席、レポートを評価対象とする。

【テキスト】

授業では、要旨等を配布予定。また、遺跡の発掘現場等作業の実際の現場見学を予定する。

【参考文献】

文化庁文化財部記念物課（監修）2005年『史跡等整備のてびき—保存と活用のために』同成社。同左（監修）2010年『発掘調査のてびき』同成社。同左（監修）2014年『石垣整備のてびき』同成社。

国際関係論

担当教員 河村 雅美

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、環境問題というまさに国境を越える問題を中心に、沖縄の例も取り入れながら国際関係、および国家や地域との関係を学ぶことを目的とします。「公害」の問題から、国連などの国際的な舞台に環境問題が取り上げられていったのかの経緯、環境に関する国際条約、NGOや科学者、メディアの役割などを中心に、現在の環境の国際的な運動について理解します。基地を抱える沖縄特有の環境問題で、どのように国境を超える運動が展開していったのか/いるのかについても触れていく予定です。講師のNGOでの経験を基に、沖縄が市民としてどのように国際的な環境問題に関われるか、そのために必要なスキルとは何かも考えていきたいと思ひます。

【授業の展開計画】

国際的な環境運動の枠組みを学び、その後、沖縄がどのように国際環境運動に関わったかを学ぶことにより、地域と国際社会の関係を学んでいきます。随時、時事問題などリアルタイムで学ぶ機会をつくって、講義を進めていきます。最終的には環境に関する国際関係の枠組みを理解し、市民としての活動スキルとして何が必要かなど、把握することを目標とします。随時、ビデオ・DVDなどの視覚教材を用いて理解を助ける予定です。一次資料や実際に活動しているNGOのニューズレターを読んだりしたいと思います。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	イントロダクション：環境の国際関係・国際運動を考えるために
3	1. 環境問題の国際化
4	2. 国連と環境問題（「地球サミット」、リオ+20～セヴァン・スズキのスピーチから今）
5	3. 国連生物多様性条約からみえる環境問題 (1)「生物多様性」とは？
6	(2)環境問題は「南北問題」
7	(3)遺伝子資源の利益の配分
8	4. 沖縄の環境問題と国際的な取り組み 1)新石垣空港建設問題での国際社会への訴え
9	2)辺野古新基地建設問題とジュゴン保護
10	3) //
11	4)米国での法的闘い「ジュゴン訴訟」
12	5)ジュゴンと沖縄の文化
13	6)枯れ葉剤・基地汚染の問題など
14	Workshop：市民活動のスキル
15	予備日
16	試験

【履修上の注意事項】

オリエンテーションで配布するものが最終的なシラバスや授業についての情報になるので履修予定者は出席すること。

【評価方法】

授業への参加姿勢（40点）、期末試験（60点）で評価する。

【テキスト】

特にメインで使う教科書はなし。レジュメを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

随時、紹介する。

国際平和学特殊講義 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際平和論

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界各国の様々な戦争や紛争は米ソの冷戦に密接に結びつけられていると思われていたが、冷戦が終わっても、新しい平和の時代は実現されなかった。かえって、戦争や民族紛争が増える傾向がある。この授業では海外の研究者が様々な観点から見た戦争や民族紛争を分析、主な学説、理論を検討する。

【授業の展開計画】

- * 冷戦以前の民族紛争の概要
 - * 冷戦以降の民族紛争の概要
 - * 紛争力学、紛争解決、と紛争予防
 - * ソ連崩壊後の民族紛争
 - * 環境・文化・構造的暴力
 - * 移民タイプの少数民族と紛争
 - * 先住民タイプの少数民族と紛争
 - * 未開社会における暴力・紛争・戦争
 - * 平和運動の比較研究
 - * ヨーロッパの平和運動（ノルウェー、デンマーク、イギリス、ドイツ）
 - * アメリカの平和運動（ベトナム反戦運動、反核運動）

【履修上の注意事項】

ディスカッションの時間に積極的な授業参加が不可欠。

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。登録をするまで欠席扱いになります。

【評価方法】

レポート - 20%

発表と授業参加 - 80%

【テキスト】

【参考文献】

- ・岡本三夫・横山正樹 編、平和学の現在、1999、法律文化社。
- ・新聞、雑誌、インターネットから収集した資料。

古文書講読 I

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

過去の社会を知る方法の一つに、膨大に残された史料＝古文書を読み解くという方法があります。本講義では、琉球で使用されていくずし字（候文）の史料に慣れ、それを読み解くための基礎的な読解力の養成を目指します。くずし字を最初から読める人はいません。講義参加者全員でゆっくりとくずし字の世界に慣れていきましょう。全体として初回から数回は、すでに翻刻されている史料（活字史料）を読み、その後、未翻刻史料などの読解に挑戦していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	史料読解法の講義①（古文書の概要と読み方）
3	史料の読解練習①
4	史料の読解練習②
5	史料の読解練習③
6	史料の講読①
7	史料の講読②
8	史料の講読③
9	史料の講読④
10	史料の講読⑤
11	史料の講読⑥
12	史料の講読⑦
13	史料の講読⑧
14	史料の講読⑨
15	史料の講読⑩
16	テスト

【履修上の注意事項】

積極的な授業への参加を期待します。継続が重要となるので、遅刻しないこと、また前・後期を通して履修することを望みます。

【評価方法】

- ・最終的な試験（テスト）に授業の出欠点、授業態度を加味し、総合的に判断します。
- ・出欠確認は、適宜行います。
- ・試験は、史料・くずし字を読解することとします。

【テキスト】

- ・授業時に適宜配布します。

【参考文献】

くずし字の読解用辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993）または林英夫・若尾俊平編『増訂近世古文書読解辞典』（柏書房、1972）。その他、必要な文献は、授業の中で適宜紹介します。

古文書講読Ⅱ

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、前期に引き続き琉球で使用されていくずし字（候文）の史料に慣れ、それを読み解くための基礎的な読解力の養成を目指します。初回から数回は、受講者の状況をみながら翻刻されている史料（活字史料）を読み、その後、未翻刻史料などの読解に挑戦していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	史料の読解練習①
3	史料の読解練習②
4	史料の講読①
5	史料の講読②
6	史料の講読③
7	史料の講読④
8	史料の講読⑤
9	史料の講読⑥
10	史料の講読⑦
11	史料の講読⑧
12	史料の講読⑨
13	史料の講読⑩
14	史料の講読⑪
15	史料の講読⑫
16	史料の講読⑬

【履修上の注意事項】

継続が重要となるので、遅刻しないこと、また前・後期を通して履修することを望みます。前半については、講義の参加者に応じて変更することがあります。

【評価方法】

- ・最終的な試験（テスト）に授業の出欠点、授業態度を加味し、総合的に判断します。
- ・出欠確認は、適宜行います。
- ・試験は、史料・くずし字を読解することとします。

【テキスト】

- ・授業時に適宜配布します。

【参考文献】

くずし字の読解用辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993）または林英夫・若尾俊平編『増訂近世古文書読解辞典』（柏書房、1972）。その他、必要な文献は、授業の中で適宜紹介します。

社会学概論

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会学の基本的な概念や思考枠組を学習することからスタートし、現代社会を批判的に読み解く（社会的想像力）と（歴史的想像力）を習得、「他者」の発見・理解を通して社会の仕組み（構造）を解明することをめざす。「個人的なことがら（ミクロ）」を「社会全体（マクロ）」との関わりの中で捉え、自明視された「常識」や「カテゴリー」、様々な「現実」が歴史的に構築されたものであることを理解していく。「他者」に冷たい「常識」に流されることなく、自分自身で「問題」を発見し、それについて自分で考え判断し、未来を主体的に行動していくための温かい批判的知性を涵養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	社会学への誘い——社会学とは、社会とは何か
3	〈私〉って何だろう——自己、相互行為、社会
4	権力とは何か①「人種」とエスニシティを考える
5	権力とは何か②格差社会と階級・階層
6	権力とは何か③ジェンダーとセクシュアリティを考える
7	家族とライフコース——恋愛・結婚・近代家族
8	組織と現代社会
9	「働く」ということ——グローバル化と変貌する労働の世界
10	変容するメディアとコミュニケーション技術
11	国民国家とナショナリズム
12	グローバリゼーションとは何か
13	文化の社会的位相——文化の力、政治性/経済性、再生産と排除
14	人口変動と現代世界①「人口問題」とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ
15	人口変動と現代世界②グローバル化する再生産領域を考える
16	学期のふりかえりとテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間レポートと学期末テストの結果に基づいて成績評価を行います。

【テキスト】

- ①長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007, 『社会学』有斐閣.
- ②ギデンズ, A., 2005, 『社会学』（第5版）, 而立書房.
- ③毎回の授業でパワーポイント資料をテキストとして配布します。

【参考文献】

毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。

社会学理論

担当教員 秋山 道宏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わたしたちは、「当たり前」（常識）という色眼鏡を通して物事を見つめ、日々の生活を送っている。しかし、現実の物事はみかけどおりではなく、聞こえのいい常識の背後でお互いを排除し、時に暴力をふるうことで社会が成りたっているとしたらどうだろう。この講義では、「働くこと」、「アイデンティティ」や「愛」などの身近な事柄を入口とし、社会学的な認識の枠組みを修得することで、この色眼鏡を批判的に捉え直す。これを通して、わたしたちが織りなす社会への理解を深め、社会との関わり方を考える一助としてほしい。また、受講人数によってはグループワークを実施する。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス。
- 第2回 イントロダクション：社会をみること。社会学における理論とはどのようなものか。
- 第3回 わたし（個人）を問う（1）「働くこと」を社会的に捉える。
- 第4回 わたし（個人）を問う（2）「自分らしさ」とはなにか（アイデンティティ）。
- 第5回 わたし（個人）を問う（3）「われわれ」とはだれか（ナショナリズム、記憶）。
- 第6回 わたし（個人）を問う（4）「愛する」とはなにか（家族、性愛、ジェンダー）。
- 第7回 沖縄を社会学理論で捉える①沖縄戦の記憶について考える。
- 第8回 社会（秩序）を問う（1）近代とはどのような時代か。
- 第9回 社会（秩序）を問う（2）身体と規律権力（監獄、学校、病院、軍隊）。
- 第10回 社会（秩序）を問う（3）階級・階層の再生産（教育、労働、貧困）。
- 第11回 社会（秩序）を問う（4）オリエンタリズム、ポストコロニアルという視点。
- 第12回 沖縄を社会学理論で捉える②ポストコロニアルとしての沖縄。
- 第13回 社会学の古典・原点に触れる（1）K.マルクスとM.ウェーバーの近代への問い。
- 第14回 社会学の古典・原点に触れる（2）P.ブルデューの社会学。自由と必然を考える。
- 第15回 授業全体のまとめ。
- 第16回 学期末テスト。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。詳細については初回のイントロダクションにてお知らせする。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。講義の必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』（而立書房、2009年）
豊泉周治ほか『<私>をひらく社会学：若者のための社会学入門』（大月書店、2014年）

社会学理論 I

担当教員 秋山 道宏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わたしたちは、「当たり前」（常識）という色眼鏡を通して物事を見つめ、日々の生活を送っている。しかし、現実の物事はみかけどおりではなく、聞こえのいい常識の背後でお互いを排除し、時に暴力をふるうことで社会が成りたっているとしたらどうだろう。この講義では、「働くこと」、「アイデンティティ」や「愛」などの身近な事柄を入口とし、社会学的な認識の枠組みを修得することで、この色眼鏡を批判的に捉え直す。これを通して、わたしたちが織りなす社会への理解を深め、社会との関わり方を考える一助としてほしい。また、受講人数によってはグループワークを実施する。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス。
- 第2回 イントロダクション：社会をみること。社会学の理論とはどのようなものか。
- 第3回 わたし（個人）を問う（1）「働くこと」を社会的に捉える。
- 第4回 わたし（個人）を問う（2）「自分らしさ」とはなにか（アイデンティティ）。
- 第5回 わたし（個人）を問う（3）「われわれ」とはだれか（ナショナリズム、記憶）。
- 第6回 わたし（個人）を問う（4）「愛する」とはなにか（家族、性愛、ジェンダー）。
- 第7回 沖縄を社会学理論で捉える①沖縄戦の記憶について考える。
- 第8回 社会（秩序）を問う（1）近代とはどのような時代か。
- 第9回 社会（秩序）を問う（2）身体と規律権力（監獄、学校、病院、軍隊）。
- 第10回 社会（秩序）を問う（3）階級・階層の再生産（教育、労働、貧困）。
- 第11回 社会（秩序）を問う（4）オリエンタリズム、ポストコロニアルという視点。
- 第12回 沖縄を社会学理論で捉える②ポストコロニアルとしての沖縄。
- 第13回 社会学の古典・原点に触れる（1）K.マルクスとM.ウェーバーの近代への問い。
- 第14回 社会学の古典・原点に触れる（2）P.ブルデューの社会学。自由と必然を考える。
- 第15回 授業全体のまとめ。
- 第16回 学期末テスト。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。
詳細については初回のイントロダクションにてお知らせする。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。講義の必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』（而立書房、2009年）
豊泉周治ほか『<私>をひらく社会学：若者のための社会学入門』（大月書店、2014年）

社会学理論Ⅱ

担当教員 秋山 道宏

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、わたしたちをとりまく現代社会の構造について、映像視聴やディスカッションなども盛り込みながら、理論的な理解を深めていく。その目的のために、ここでは、「働くということ」、「グローバリゼーション」および「オルタナティブな社会の希求」の三つのテーマを取り上げる。この講義を通して、現代社会のあり様とその変化をマクロな視点から把握するとともに、この社会を「不変のもの」としてではなく、「変りえるもの」と捉える視点を身につけてほしい。また、基本的には、グループワーク（GW）を実施することとし、受講人数によっては若干内容を変更することがある。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス。
- 第2回 イントロダクション：授業全体のテーマ概説。社会構造を捉える視点とは。
- 第3回 働くということ (1) 「ワーキング/プア」とはなんだろう。(GW)
- 第4回 働くということ (2) 働くことの不安定化と格差・貧困の社会的な背景。
- 第5回 働くということ (3) 労働者の権利、労働運動とはなにか。
- 第6回 グローバリゼーションを問う (1) 世界はどうつながっているのか。映像視聴。
- 第7回 グローバリゼーションを問う (2) グローバルな格差・貧困を捉える視点。
- 第8回 グローバリゼーションを問う (3) 現代資本主義の特徴を考える。映像視聴。
- 第9回 グローバリゼーションを問う (4) 福祉国家、新自由主義、惨事便乗型資本主義。
- 第10回 オルタナティブな社会の希求 (1) 新しい社会は可能か。映像視聴。
- 第11回 オルタナティブな社会の希求 (2) 社会運動と社会変動の社会学。
- 第12回 オルタナティブな社会の希求 (3) 身近な場所から民主主義を考える。(GW)
- 第13回 オルタナティブな社会の希求 (4) 民主主義と新たな社会のかたち。
- 第14回 現代社会（世界）のなかでの沖縄。基地・地域社会・民主主義。
- 第15回 授業全体のまとめ。
- 第16回 学期末テスト。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。
詳細については初回のイントロダクションにてお知らせする。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

新井大輔・柴田努・森原康仁編著『図説経済の論点』（旬報社、2015年）
中西新太郎・蓑輪明子編著『キーワードで読む現代日本社会』（旬報社、2012年）
豊泉周治ほか『<私>をひらく社会学：若者のための社会学入門』（大月書店、2014年）

社会心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論、研究方法、ならびに、著名な研究者などについて概説していきます。テーマとしては、援助・攻撃行動、集団内・集団間関係、コミュニケーション行動、消費行動、文化や社会と人間心理の関係などを取り上げます。受講生の要望等もふまえながら、なるべく日常的な心理現象や話題を取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的視座から読み解くことを通して、科学的・客観的なものの見方、考え方を身につけていくことを目標としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション；本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	人を助ける心とは？(1) ～援助行動の心理学～
3	人を助ける心とは？(2) ～ソーシャル・サポートの社会心理学～
4	人が傷つけられるとは？ ～社会的孤立と排斥の社会心理学～
5	人を傷つけるとは？ ～怒りと攻撃の社会心理学～
6	集団の機能と影響過程の心理学(1) ～集団の生産性とリーダーシップ、集団意思決定～
7	集団の機能と影響過程の心理学(2) ～集団間関係における差別と偏見～
8	集団の機能と影響過程の心理学(3) ～服従実験と監獄実験の対比を題材として～
9	集団の機能と影響過程の心理学(4) ～集団行動の破壊力：オウム真理教とマインド・コントロール～
10	コミュニケーションの心理学(1) ～非言語コミュニケーション(NVC)を中心に～
11	コミュニケーションの心理学(2) ～広告・宣伝の社会心理学的分析～
12	コミュニケーションの心理学(3) ～口コミ、マーケティング、消費行動～
13	文化と人間心理・行動の関係とは？ ～個人主義と集団主義、文化と思考様式～
14	社会心理学の応用と展開 ～面接場面 or 犯罪捜査における社会心理学の適用～
15	全講義内容のまとめと試験案内
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義は出席が必須条件です。履修登録や講義内容に関する重要な説明を行うためです。欠席した場合、原則的に履修仮登録を取り消しますので、履修希望者は十分ご注意ください。
- ・学期末試験は、持ち込み不可で行う予定です。履修者数によってはレポート課題に変更することもあります。
- ・講義への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等は厳禁です。
- ・授業の展開計画は、講義内容も含め、受講生の希望等もふまえて一部変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回提出させるリアクションペーパーの質と量により評価します。
- ・学期末試験は、配布資料や参考書籍等の持ち込みを一切不可として行う予定ですので、ご注意ください。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

安藤清志・松井豊 編 1990～2012 セレクション社会心理学シリーズ サイエンス社
 遠藤由美 編著 2009 社会心理学-社会で生きる人のいとなみを探る- ミネルヴァ書房
 池田謙一・唐沢稯・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣

社会調査とコンピュータ I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では大学で必要な情報処理能力・知識と技能を養成し、人類学、民俗学、考古学などの分野で使う調査方法、資料の整理と分析、報告書の作成等を学ぶことを目的とする。インターネット検索の様々な方法を検討し、検索した資料の評価をして、発表をする。

【授業の展開計画】

1. 情報社会とは何か
2. ネットワークとコミュニケーション
3. インターネット歴史の社会的背景
4. ネットワークの使い方とファイル管理の方法
5. ネットワーク、プライバシーと知的財産の問題
6. LMSの利用
7. インターネットプロトコール (WWW, telnet, ftp, gopher, wais, archie, 等)
8. インターネット検索テクニック 1: 検索エンジンの比較
9. インターネット検索テクニック 2: 検索エンジンとブールの演算子と検索構文
10. インターネット検索テクニック 3: 検索エンジンの分析
11. インターネット検索テクニック 4: 検索エンジンを探る
12. 報告書・レポートをワープロソフトで作成する
13. レポートのフォーマット、ページレイアウト、脚注と参考文献
14. VBAで効率を上げる
15. QDAの紹介

【履修上の注意事項】

課題は全部提出すること。無断欠席に注意。

LMSの登録と出席システムの登録は自己責任。LMS登録をするまで欠席扱いになります。

【評価方法】

クイズ： 30%

課題： 70%

【テキスト】

大串夏身、文科系学生のインターネット検索術、青弓社、2001年

【参考文献】

Perspection, Inc. 著、(株)ドキュメントシステム 訳、ひと目でわかるMicrosoft Office 2013 Professional

社会調査とコンピュータⅡ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会調査法 I

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考 文化コース

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

国際社会から家族まで、私たちはさまざまな社会の中で暮らしています。社会調査は、個人や集団の間で起こる様々な社会現象・社会問題が、「なぜ」起こるのか、「どのように」成り立っているのか、ということ明らかにしようとしています。「調べる」技術は、レポート・卒業論文に必要なだけでなく、実社会に出ても重要なスキルのひとつです。

本講義では社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項、調査倫理、資料やデータの収集から分析までの諸過

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（本講座の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査とは何か？（社会調査の意義・用途）
3	社会調査の種類とその方法（質的調査と量的調査、その特徴と方法の概要）
4	社会調査の歴史（古代の戸籍調査から現代のネット調査まで）
5	社会調査における倫理と課題1（調査実施上の注意点、調査と社会の関係）
6	調査と社会の関係 情報収集の方法1（官公庁、図書館、書店等の活用）
7	情報収集の方法2（NACSIS、WEBCATなどインターネットの活用）
8	先行事例の検討とテーマ設定の方法（収集した先行事例の読み方と操作概念・仮説構成の概略）
9	操作概念・仮説構成の概略 事例に学ぶ量的調査1（量的調査の種類とその概要、作業の流れ）
10	事例に学ぶ量的調査2（標本調査の特徴と方法）
11	事例に学ぶ質的調査1（質的調査とインタビュー調査の特徴と方法）
12	事例に学ぶ質的調査2（観察法による調査の特徴と方法）
13	事例に学ぶ質的調査3（ドキュメント分析による調査の特徴と方法）
14	前期講義のふりかえり（調査の種類・方法、調査倫理・課題を中心に）
15	前期抗議のふりかえり（量的調査・質的調査の事例・方法等を中心に）
16	テスト、レポート提出

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として社会文化学科・文化コースの学生を優先する。
- ・授業中の私語、携帯は厳禁。場合によっては退席を命じる場合もある。その際は欠席したものとして取り扱う。
- ・病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。何らかの救済措置を設ける。

【評価方法】

原則として、下記の基準で行う。

- ・テスト 30点
- ・レポート 40点
- ・出席状況 30点（15回×2点）

その他、授業態度等を勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介他編著『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房、2013年

【参考文献】

- ・谷岡一郎著「「社会調査」のウソ リサーチリテラシーのすすめ」文藝春秋（文春新書）、2000年
- ・好井裕明「あたりまえを疑う社会学」光文社新書、2005年
ほか、講義で適宜指示する。

社会調査法 I

担当教員 澤田 佳世

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、これから社会調査を学んでいこうと考えている、あるいは研究過程上社会調査を必要としている学生を対象とした、社会調査の初歩・基礎をレクチャーするものである。社会調査の目的や意義、調査の事例や量的・質的両調査の紹介はもちろんのこと、近年「調査被害」と称され揶揄される問題と関連して、調査員としての「心がまえ」（倫理）に関しても重点をおいた学習課題とする。

【授業の展開計画】

- 【1】 イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介、他の社会調査士科目との関連性・位置づけ）
- 【2】 「社会調査」という世界への招待(1)（社会調査の意味、現代社会における意義、目的）
- 【3】 「社会調査」という世界への招待(2)（社会調査の歴史）
- 【4】 「社会調査」という世界への招待(3)（社会調査の種類と用途）
- 【5】 社会調査の注意書き（社会調査はなぜ煙たがられるか―「調査被害」と調査倫理―）
- 【6】 社会調査の基本ルール(1)（記述と説明、概念と概念の操作的定義）
- 【7】 社会調査の基本ルール(2)（変数と仮説）
- 【8】 情報資源の活用法(1)（学術情報ネットワークの活用法、NACSIS、WEBCATなど）
- 【9】 情報資源の活用法(2)（官公統計、世論調査など二次的データの活用法と基本ルール）
- 【10】 量的調査の実際(1)（統計的調査法とは何か―量的調査法の特性と種類、その魅力／問題点―）
- 【11】 量的調査の実際(2)（統計的調査法とは何か―悉皆調査と標本調査、「サンプル」という考え方―）
- 【12】 質的調査の実際(1)（事例研究法とは何か―質的調査の特性と種類、その魅力／問題点―）
- 【13】 質的調査の実際(2)（事例研究法とは何か―聞き取り調査の仕方と実践―）
- 【14】 質的調査の実際(3)（事例研究法とは何か―参与観察法、ドキュメント分析、生活史法―）
- 【15/16】 まとめ（ふりかえりと各学習課題の点検・提出）

【履修上の注意事項】

- ①担当講師の講義、および学生による実践的な作業（ワークショップ含む）でとりおこないます。
- ②実践的理解を深めるために、必要に応じて、映像資料も使用します。
- ③講義中の質問やコメントという形での「参加」を大歓迎します。
- ④講義はパワーポイント（プレゼンテーションソフト）を利用して進めます。
- ⑤授業終了時にリアクションペーパーを記入してもらい、次回授業の開始時に、前回のふりかえりを行います。

【評価方法】

平常点（授業への出席、実践的作業・ワークショップへの参加）、学期末レポートと簡単な中間演習課題の結果に基づいて総合的に成績評価をします。

【テキスト】

各回の講義でパワーポイント資料をテキストとして配布します。加えて、大谷信介他編著『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法―』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

各回の講義で紹介します。

社会調査法Ⅱ

担当教員 澤田 佳世

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査法Ⅱにおける基礎を踏襲したうえで、社会調査（おもに量的調査）によって収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な方法を解説する講義とする。とくに、近年の学生たちが困難をきわめている「調査研究テーマの立て方」そのものからスタートし、調査の企画・設計、概念や変数の意味に関する学習から仮説構成など、社会科学の初歩的研究作業もレクチャーしていく。実際に調査票を作成し、標本数と誤差、サンプリング（標本抽出）の論理と実践を学んだうえで、グループでミニ調査を実施し、データの整理や分析を報告してもらう。

【授業の展開計画】

- 【1】 イントロダクション（講義の内容、学習目標の紹介、他の社会調査士科目との関連性・位置づけ）
- 【2】 調査の企画・設計(1)（調査テーマを発見するための情報資源の活用、調査テーマの設定、仮説構成、概念の操作的定義）
- 【3】 調査の企画・設計(2)（グループ学習—調査企画書を作成しよう—）
- 【4】 調査票作成の実際(1)（調査票の構造、質問文・選択肢作成と注意事項）
- 【5】 調査票作成の実際(2)（グループ学習—調査票を作成しよう—）
- 【6】 サンプリングの論理と種類（無作為抽出の考え方と方法）
- 【7】 サンプル数の算出法と標本誤差（論理と実践）
- 【8】 サンプリングの実践(1)（乱数の発生と単純無作為抽出法）
- 【9】 サンプリングの実践(2)（系統抽出法と層化抽出法）
- 【10】 調査の実施方法—調査票の配布および回収法、面接調査の仕方、フィールドノート
の意義と活用—
- 【11】 調査データの整理(1)（エディティング、コーディング、データインプット、データクリーニング）
- 【12】 調査データの整理(2)（単純集計とクロス表の作成）
- 【13】 グループ学習—ミニアンケートの実施と簡単なデータの集計—
- 【14】 グループによるアンケート調査の成果報告
- 【15/16】 まとめ（ふりかえりと各学習課題の点検・提出）

【履修上の注意事項】

- ①本講座は、講義と学生参加型のグループ・ワークを併用します。講義とグループ・ワークを通じた学生による実践的な作業でとりおこない、講義時は、パワーポイントを利用します。
- ②講義中の質問やコメントという形での「参加」を大歓迎します。
- ③本講座はグループ・ワークを併用するため、出席を重視します。毎回の授業で出欠をとります。
- ④初回授業で配布する授業予定表にあるテキストの該当章を、授業開始までに必ず読了しておいてください。

【評価方法】

平常点（授業への出席、グループワーク作業への参加）、学期末レポート、簡単な中間演習課題の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。

【テキスト】

毎回の講義でパワーポイント資料をテキストとして配布します。そのほかに、大谷信介他編著『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房、2013年、をテキストとして使用します。

【参考文献】

毎回の講義で各テーマに準じた参考文献を紹介します。

社会調査法Ⅱ

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考 文化コース

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、社会調査法Ⅰにおいて得られた基礎的知識を基に、テーマ設定、資料・データ収集、調査企画、調査票作成、サンプリング、実査管理、データ処理、分析などの手法を学び、実際に自分で調査の設計と実施ができる技術の習得を目的として講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講座の目的・内容・スケジュール）
2	調査テーマの検討に向けた情報収集とその活用
3	概念・変数・仮説の考え方とその活用
4	グループ作業（資料収集とテーマの検討）
5	調査設計・企画の方法（調査方法の選び方、スケジュールの組み立て方など）
6	調査票の作成1（調査票設計の基本的な考え方）
7	調査票の作成2（ワーディング、質問の配列など、質問文作成にあたって注意すべき点）
8	サンプリングの方法1（サンプリングの考え方と基本的な理論）
9	サンプリングの方法2（サンプリングの種類と実際の作業の流れ）
10	調査の実施方法1（調査管理者としての作業の流れ）
11	調査の実施方法2（調査員としての作業の流れ）
12	調査データの整理（エディティング、コーディング、クリーニング、データの検定）
13	集計結果の検証（統計的手法によるデータの検証）
14	グループ発表とまとめ1
15	グループ発表とまとめ2
16	講義の振り返り・全体まとめ

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として社会文化学科・文化コースの学生を優先する。
- ・授業中の私語、携帯は厳禁。場合によっては退席を命じる場合もある。その際は欠席したものとして取り扱う。
- ・病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。何らかの救済措置を設ける。

【評価方法】

- ・出席
 - ・グループ発表
 - ・発表報告書
- などを元に総合的に評価する。

【テキスト】

- ・大谷 信介ほか著「新・社会調査へのアプローチ—論理と方法」ミネルヴァ書房、2013年

【参考文献】

- ・谷岡一郎著「「社会調査」のウソ リサーチリテラシーのすすめ」文藝春秋（文春新書）、2000年
- ・好井裕明「あたりまえを疑う社会学」光文社新書、2005年
ほか、講義で適宜指示する。

社会統計学 I

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について勉強し、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作成する力など統計を活用する力）の基礎を身につけることを目指します。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶと

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）
8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）
9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定、属性相関係数）
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定など具体的な独立性検定の方法）
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）
15	講義の振り返り・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として社会文化学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合、事前もしくは事後に、欠席届を必ず提出すること。理由によって適切に対応する。

【評価方法】

出席 : 45点=1回: 3点×15回（宿題提出をもって出席とする）
 レポート : 50点
 その他 : 5点（受講態度など）

【テキスト】

テキスト：廣瀬毅士 寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010
 また、適宜講義中にプリント、学習用電子データを配布する。

【参考文献】

- ・ハンス・ザイゼル『数字で語る—社会統計学入門』新曜社、2005
- ・ロウントリー『新・涙なしの統計学』新世社、2001
- ・酒井隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003 など

社会統計学Ⅱ

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っている場合が多く見られます。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。

この講義では、「社会統計学I」の内容を踏まえ、多変量解析の基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Iの復習）
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4
8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1
9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2
10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3
11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4
12	似たものをまとめる「クラスター分析」1
13	似たものをまとめる「クラスター分析」2
14	似たものをまとめる「クラスター分析」3
15	講義のふりかえり・まとめ
16	（テスト・レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として社会文化学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては、退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合は、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由に応じて適切に対応する。”

【評価方法】

- ・出席 : 45点 (講義1回3点×講義15回、宿題提出をもって出席とする)
- ・レポート : 50点
- ・その他 : 5点 (受講態度等)

【テキスト】

涌井良幸・涌井貞美『多変量解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社、2011
このほか適宜講義中で指示する。また、プリント・講義用サンプルデータ等を配布する。

【参考文献】

講義中で適宜指示する。

集落地理論 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を織り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	村落地理学の研究史
2	村落と地図①－地形図の基礎－
3	村落と地図②－地形図の利用方法－
4	村落と地図③－空中写真の判読と利用方法
5	村落と地図④－国土基本図と地籍図－
6	村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
7	村落の景観①－景観概念－
8	村落の景観②－沖縄村落の景観－
9	村落の景観③－景観研究の事例－
10	村落の景観④－景観調査の方法と実践－
11	村落の景観⑤－景観の政治性－
12	村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
13	村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－
14	村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践
15	村落景観と社会組織
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

集落地理論Ⅱ

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生涯学習概論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生涯学習の重要性がいわれて久しい今日の社会において、人々がさまざまな知識や情報を得るための施設として、博物館は重要な役割を担っている。それゆえ、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性はもとより、学習者の援助・指導のための生涯学習に関する基礎的な知識や技術の修得が不可欠である。この授業は、生涯学習とは何かという基本的なことから始まり、博物館と生涯学習とのかかわり、学芸員の果たすべき役割などについて学び、学芸員としての資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

授業は、講義および実習により構成する。

講義では、博物館学芸員に求められる生涯学習についての基本的な考え方、基礎知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を取り扱う。

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習の領域
3. 生涯学習の形態と方法
4. 生涯教育と生涯学習
5. 生涯各期における学習の課題
6. 社会教育行政と生涯学習
7. 生涯学習支援のための施設
8. 博物館行政
9. 博物館における学芸員
10. 学芸員と生涯学習
11. 博物館ボランティアと生涯学習
12. NPOと生涯学習
13. 生涯学習と博物館のこれから

また実習では、実際に資料（もの）を調査して調書に記録し、これをもとに展示解説文を作成し、展示するという一連の作業をとおり、調査、研究、展示、教育、普及といった博物館業務の各面において、生涯学習の視点がどのように取り入れられているかを学ぶ。

なお、博物館現場の今日的な実情等についても、随時授業の内容に反映させていく予定である。

【履修上の注意事項】

この授業では、博物館と生涯学習に関する内容はもとより、情報を的確に処理し、それをもとに考え理解を深めるという、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的としている。そのため、板書やレジュメでは要点のみを示して内容を詳述しない。重要と思われる箇所は各自ノートなどにまとめて十分に理解することを要する。また、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

本学の学部履修規程第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行う。

なお、採点基準は 講義への出席（20点）・小考査（20点）・実習に係る提出物（30点）・レポート等（30点）とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

毎回配布するレジュメおよび資料により、講義・実習を進める。

【参考文献】

■倉内史郎・鈴木眞理 編著 『生涯学習の基礎』1998年 学文社

■全国大学博物館講座協議会西日本部会 編 『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版

ジェンダーの思想

担当教員 武田 一博

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ジェンダー論

担当教員 武田 一博

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、社会的・文化的に作り出されたジェンダーの諸問題を、現代社会の中で具体的な事例をつうじて考えていくことを目的としています。参加者が少人数の場合には、ディスカッションを重視して授業を進めていきます。参加者は、単なる知識の問題として捉えるのではなく、自分の問題として、人間の生き方の問題として受け止め、考えてほしいと希望します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師の自己紹介。ジェンダーとは何か。
2	レポート作成上の諸注意。
3	セックスとセクシュアリティとジェンダーは、どこが違うか？
4	なぜ女性は化粧する（ことが強制される）？
5	女ことばと男ことばは、何のためにある？
6	男と女は、脳の作りが違う？ー共感脳とシステム化脳
7	女性は理数系が本当ににがて？
8	「女性はやさしく」「男性はたくましく」はなぜ？
9	なぜ女性だけが家事・育児をする（ことを強制される）？
10	エコロジカル・フォミニズムが主張していること
11	なぜ女性の生涯賃金は、男性の半分なのか？
12	「男女雇用機会均等法」とは何か？
13	「男女共同参画社会基本法」がめざすもの
14	新しい「女らしさ」「男らしさ」とは何か
15	男女の平等は実現可能か？ージェンダー・フリーか、ジェンダー・イクオリティか？
16	まとめと参加者の感想・評価、そしてレポート提出

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

講義もしますが、できるかぎり参加者の意見・質問を重視して進めます。ただ静かにノートを取るだけでなく、積極的に発言してください。

【評価方法】

レポートで成績を評価します。出席は取りません。

レポート作成の際は、2回目の授業で行なう諸注意をよく守ってください。

諸注意を守っていないレポートは、不可にします。

レポート提出の際には、5分間でいど発表してもらうこともあります。

【テキスト】

指定しません。

授業で紹介する本を、できるだけたくさん読んでください。

【参考文献】

卒業論文指導演習

担当教員 宮城 邦治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文指導演習

担当教員 石垣 直

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習の目的は、基礎演習と実習（2年生）および演習（3年生）で学んできた成果を踏まえ、各ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集・研究、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成・編集を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	18	調査成果発表と質疑応答（1）
3	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	19	調査成果発表と質疑応答（2）
4	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	20	調査成果発表と質疑応答（3）
5	学術論文作法	21	調査成果発表と質疑応答（4）
6	テーマ設定（1）	22	中間発表会（1）
7	テーマ設定（2）	23	中間発表会（2）
8	文献研究（1）	24	論文作成・指導（1）
9	文献研究（2）	25	論文作成・指導（2）
10	文献研究（3）	26	卒業論文仮提出
11	文献研究（4）	27	論文作成・指導（3）
12	文献研究（5）	28	論文作成・指導（4）
13	文献研究（6）	29	論文作成・指導（5）
14	調査計画、質問事項等の作成（1）	30	論文作成・指導（6）
15	調査計画、質問事項等の作成（2）	31	完成卒業論文へのコメント・推敲作業
16	（予備日）		

【履修上の注意事項】

卒業論文作成のためのゼミである本演習では、2年次の基礎演習および3年次の演習における文献研究や現地調査経験を踏まえつつ、各ゼミ生が本学部本学科で学んできたことの集大成として、卒業論文をまとめてほしい。

【評価方法】

出席・授業への参加姿勢（40%）、調査成果・論文評価（60%）。卒業論文の内容はもとより、各ゼミ生の出席および演習への参加姿勢を重視して総合的に評価する。

【テキスト】

演習のなかで適宜紹介。

【参考文献】

演習のなかで適宜紹介。

卒業論文指導演習

担当教員 及川 高

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

各自が定めた卒論のテーマ、フィールド、方法、資料に基づいて卒業論文の構想と執筆を進める。前期と後期に1回ずつ中間報告を行い、より高い水準での論文の完成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション	17	後期イントロダクション
2	卒論構想報告（研究計画と進捗）	18	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
3	卒論構想報告（研究計画と進捗）	19	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
4	卒論構想報告（研究計画と進捗）	20	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
5	卒論構想報告（研究計画と進捗）	21	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
6	卒論構想報告（研究計画と進捗）	22	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
7	卒論構想報告（研究計画と進捗）	23	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
8	卒論構想報告（研究計画と進捗）	24	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
9	卒論構想報告（研究計画と進捗）	25	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
10	卒論構想報告（研究計画と進捗）	26	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
11	卒論構想報告（研究計画と進捗）	27	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
12	卒論構想報告（研究計画と進捗）	28	卒論構想報告（レビュー、論理、分析の妥当性）
13	卒論構想報告（研究計画と進捗）	29	卒論最終指導（体裁と倫理のチェック）
14	卒論構想報告（研究計画と進捗）	30	卒論最終指導（体裁と倫理のチェック）
15	卒論構想報告（研究計画と進捗）	31	卒論報告会
16	講義；夏季フィールドワークに向けて		

【履修上の注意事項】

・個々の卒業論文執筆の進捗に従い、上記計画に拘らず柔軟に実施する。また講義では論文執筆にあたって求められる研究者倫理についても具体的に説明する。

【評価方法】

・卒業論文への取り組みと、その内容に基づいて評価する。

【テキスト】

・必要に応じて指示する

【参考文献】

・特になし

卒業論文指導演習

担当教員 澤田 佳世

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習では、自分で関心のあるテーマを設定し、そのテーマについて「問い」を立て、その「問い」について自分自身で徹底的に調べ・悩み・考え、〈社会的想像力〉と〈歴史的想像力〉を駆使しながら、先行研究の知見と現地調査に基づいて卒業論文の作成を行う。

【授業の展開計画】

前期にテーマの焦点化と先行研究の整理を行い、論文概要（テーマ、目的、問題の所在、仮説、予備的章立て、文献リスト）と研究計画（調査研究手法）について口頭発表してもらう。夏期休暇中には、各自、研究計画をもとに現地調査を実施する。後期には、調査結果を整理・分析して中間報告を行いつつ、各自卒業論文を完成させ提出する。その後、卒業論文報告会で口頭発表を行う。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	イントロダクション	17	講義③卒論の形式と決まり
2	講義①卒論作成までのプロセス	18	個人報告②（中間報告）
3	講義②卒論の書き方	19	同上
4	個人報告①（論文概要と研究計画）	20	同上
5	同上	21	同上
6	同上	22	同上
7	同上	23	同上
8	同上	24	同上
9	同上	25	同上
10	同上	26	同上
11	同上	27	同上
12	同上	28	卒論仮提出（12月第2・3金曜日）
13	同上	29	個別指導
14	同上	30	卒論本提出（1月）
15	同上	31	卒論発表会（2月上旬、個人報告③）
16	前期のふりかえり・討論		

【履修上の注意事項】

- ①自分で興味のあるテーマを設定し、それについて自分でとことん調べ、たくさんの本を読み、考え続ける努力が必要である。自分で一生懸命悩み考える学生には助力を惜しまない。
- ②本演習を履修し卒業論文を提出した者は、本演習の4単位と卒業論文の4単位の「合計8単位」を取得する。
- ③卒業論文の提出要件を満たさない者は、ゼミ論の提出により「本演習4単位」を取得する。

【評価方法】

卒業論文作成過程（ゼミの出席状況も含む）、口頭発表、討論への参加、卒業論文の内容で総合的に評価する。

【テキスト】

★社会学ゼミ用の『卒論のしおり』、「卒論作成までのプロセス」、「卒論の書き方」を配布する。そのほかに木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論社, 1981）、榎木伸明『卒論を書こう（第2版）』（三修社, 2006）、早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方（第2版）』（早稲田大学出版部, 2002）。

【参考文献】

個別テーマに応じて適宜紹介する。

卒業論文指導演習

担当教員 田名 真之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の作成に向けて、各自テーマを設定し、文献、史料の調査、収集を行い、論文の目次、構成を考え、中間報告、進捗状況報告などを経て、論文を完成させる。

【授業の展開計画】

1. 年間スケジュールを立てる
2. 論文の目次の作成
3. 中間報告（10月）
4. 下書き原稿作成（12月）
5. 論文提出（1月下旬）

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	年間スケジュール確認	17	卒論進捗状況の報告
2	論文作成について 論文講読	18	論文講読
3	卒論テーマ発表	19	同 上
4	論文講読 — 輪読 割り当て	20	同 上
5	同 上	21	卒論第2回発表
6	同 上	22	同 上
7	同 上 卒論目次案提出	23	同 上
8	同 上	24	同 上
9	同 上 先行研究、参考文献提出	25	卒論仮提出
10	同 上	26	卒論—添削指導
11	卒論中間発表(各自20分)質疑・応答	27	同 上
12	同 上	28	同 上
13	同 上	29	卒論論文集作成について — 作業
14	同 上	30	同 上
15	論文講読	31	卒論発表会 準備
16	夏期休暇中の卒論準備計画発表		

【履修上の注意事項】

毎回出席し、他の報告にも質疑応答など積極的に参加すること

【評価方法】

卒論への取り組み、卒論の内容により評価

【テキスト】

【参考文献】

全員、及び各自に対する参考文献は適宜紹介する

卒業論文指導演習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。

【授業の展開計画】

前期は、まず各自がテーマを決定し、自分の論文を作成するために必要とされる作業を把握できるようにする。そのうえで、夏期休暇中に本格的な調査を進めることができるよう、準備を進める。その進捗状況について、ゼミでの報告を求める。

後期は、それまでの調査をまとめて中間報告を行ったうえで、論文の完成に向けて作業を進める。

【履修上の注意事項】

自ら考え、主体的に取り組む覚悟をもって履修すること。

【評価方法】

論文作成に向けた取り組みと提出された論文に基づいて評価する。

【テキスト】

指定しない。（各自で積極的に情報を集めること）

【参考文献】

指定しない。（各自で積極的に情報を集めること）

卒業論文指導演習

担当教員 上原 静

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自、関心のあるテーマを設定する。
遺跡の報告書をもって卒業論文にかえることもある。

【授業の展開計画】

関心のあるテーマについて、学史を調べリポートを作成する。
夏期休暇までに、卒論の骨子をまとめ、簡単な肉付けをする。
後期に不備な点を補い、本格的な執筆にはいる。

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。
遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

課題レポートや論文の内容

【テキスト】

個別テーマに応じて随時推薦する。

【参考文献】

中国の言語と文化 I

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中国は歴史的に沖縄と深い関わりあいをもってきた国・地域である。中国はまた、近代になって沖縄が本格的に日本の国家制度に組み込まれてきた歴史、日本の近代・現代、さらには21世紀のアジアおよび世界を考えるうえで、とても重要な参照対象である。本講義では、地理・歴史、言語・哲学・思想・宗教、親族・人間関係、政治・経済といったさまざまなトピックから多面的に迫ることで、「巨大な隣人」についての理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中国の概要——基礎データ
3	中国の歴史（1）——華夷秩序と歴代王朝の交代劇
4	中国の歴史（2）——二人の「最終皇帝」、溥儀と毛沢東
5	中国語の世界（1）——漢語・漢字の歴史と「中国人」
6	中国語の世界（2）——中国語入門
7	中国社会の構造（1）——親族関係
8	中国社会の構造（2）——人間関係・社会関係
9	映像鑑賞——中国の伝統文化・宗教世界
10	中国の思想と宗教（1）——年中行事、儒教
11	中国の思想と宗教（2）——仏教、道教、風水
12	中国の思想と宗教（3）——民俗宗教の世界
13	現代中国の現状と課題——政治・経済、民族問題
14	映像鑑賞——現代中国の現実
15	まとめ——中国文化と現代社会
16	期末試験

【履修上の注意事項】

毎回の講義の際に、出席確認をかねて、受講生にリアクション・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することがあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、期末テスト（70%）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのリアクション・ペーパーの提出を求める。また、学期末には講義内容にかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

瀬川昌久2004『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』京都：世界思想社
 東洋文化研究会（編）2005『中国の暮らしと文化を知るための40章 エリア・スタディーズ』東京：明石書店
 渡邊欣雄1991『漢民族の宗教——社会人類学的分析』東京：第一書房

島嶼環境論 I

担当教員 渡久地 健

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

島嶼環境論Ⅱ

担当教員 渡久地 健

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

都市社会学

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。本講義では、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集会的消費の問題について考える。古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活の特性と諸問題について考える。そのうえで「無印都市」をキーワードとし、〈テーマ化する都市〉の問題と可能性を探索するような講義内容となる。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「都市社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学への招待
2	日本における近代的都市化—1920年代を中心に
3	日本と沖縄の都市化—高度経済成長と米軍統治、「バブル」と振興策
4	都市社会を考える学習課題①
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関、正常人口の正常生活
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論
8	日本における都市社会学の展開④—新都市社会学と資本・国家・空間、集会的消費
9	都市社会学を考える学習課題②
10	テーマ化する都市①—博覧会からテーマパークへ
11	テーマ化する都市②—都市空間「テーマ化」とその諸問題
12	テーマ化する都市③—ショッピングモールの増殖とコミュニティ、公共圏
13	「無印都市」の特徴と問題①—「気散じ」と「身散じ」
14	「無印都市」の特徴と問題②—「密猟」という視点
15	都市社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「都市社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

都市社会学Ⅰ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。Ⅰでは、近代ヨーロッパからアメリカまでの古典的都市社会学を取り上げ、またブラック・ソシオロジーによる都市研究について言及する。さらに、理論的学習のみならず都市の空間構造、都市とエスニシティ、都市と貧困、都市社会と差別など、具体的な諸問題を取りあげて学習していくことを目的とする。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「都市社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学への招待
2	近代都市への着目—マックス・ヴェーバーの都市類型論—
3	近代都市と博覧会①—「近代」と博物学的まなざし—
4	近代都市と博覧会②—「見世物」都市から「博覧会」都市へ—
5	都市社会を考える学習課題①
6	シカゴ学派都市社会学①—アメリカ合衆国の隆盛とシカゴの都市化—
7	シカゴ学派都市社会学②—ジンメル都市社会論の影響—
8	シカゴ学派都市社会学③—シカゴ都市社会学の誕生と「人間生態学」—
9	シカゴ学派都市社会学④—「同心円地帯説」「アーバニズム論」—
10	都市社会を考える学習課題②
11	アメリカ都市の諸相—矛盾と葛藤—
12	ブラックソシオロジーの展開①—デュボイスの社会学—
13	ブラックソシオロジーの展開②—ブラックソシオロジーの<インサイダー教義>問題—
14	ブラックソシオロジーの展開③—ブラックソシオロジーの現在—
15	都市社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「都市社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。Ⅱでは、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集会的消費の問題について考える。古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活の特性と諸問題について考える。そのうえで「無印都市」をキーワードとし、〈テーマ化する都市〉の問題と可能性を探索するような講義内容となる。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「都市社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化—1920年代を中心に
3	日本と沖縄の都市化—高度経済成長と米軍統治、「バブル」と振興策
4	都市社会を考える学習課題①
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関、正常人口の正常生活
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論
8	日本における都市社会学の展開④—新都市社会学と資本・国家・空間、集会的消費
9	都市社会学を考える学習課題②
10	テーマ化する都市①—博覧会からテーマパークへ
11	テーマ化する都市②—都市空間「テーマ化」とその諸問題
12	テーマ化する都市③—ショッピングモールの増殖とコミュニティ、公共圏
13	「無印都市」の特徴と問題①—「気散じ」と「身散じ」
14	「無印都市」の特徴と問題②—「密猟」という視点
15	都市社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「都市社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

南島考古学Ⅰ

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義で沖縄諸島におけるグスク時代、近世以降の遺跡から出土する古瓦および関連遺物の特質について概観し、周辺地域の日本本土、朝鮮、中国と関連づけながら、その歴史、文化的意義について考える。

【授業の展開計画】

- 第1週 歴史考古学の研究方法と瓦研究
- 第2週 沖縄諸島の古瓦研究と課題
- 第3週 日本中世の屋瓦と歴史
- 第4週 グスク時代の高麗系瓦
- 第5週 グスク時代の大和系瓦
- 第6週 沖縄諸島に残る民俗事例の屋瓦製作
- 第7週 先島諸島に遺跡にみる古瓦
- 第8週 中国の屋瓦と建物の歴史
- 第9週 朝鮮半島の屋瓦と建物の歴史
- 第10週 日本の屋瓦と建物の歴史
- 第11週 輝緑岩製石棺と屋瓦
- 第12週 沖縄諸島の建物史
- 第13週 日本本土の赤色瓦
- 第14週 沖縄諸島の窯業
- 第15週 試験

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。遅刻、欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

試験、課題レポートなどの内容。

【テキスト】

講義の際に随時、提示する。

【参考文献】

講義時に提示する。

南島考古学Ⅱ

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会的に関心が高く、話題性のある近年の発掘調査や、研究成果を取り上げ、その意義を解説する。また、その国民共有の遺産としての文化財について、その保存と活用のあり方を考える。

【授業の展開計画】

- 第1週 琉球諸島の先史文化について
- 第2週 先史時代の終焉とグスク時代の萌芽〈太宰府と喜界島〉
- 第3週 琉球王権とグスク
- 第4週 金属器と権力
- 第5週 琉球王国と鑄造技術
- 第6週 琉球砥石考
- 第7週 考古学からみる先史古代のレシピ
- 第8週 考古学とあわもり
- 第9週 先史古代の遊戯史文化
- 第10週 沖縄諸島の建物
- 第11週 沖縄諸島の石造物と建物
- 第12週 発掘調査事例1
- 第13週 発掘調査事例2
- 第14週 発掘調査事例3
- 第15週 試験

【履修上の注意事項】

テスト、課題レポートの内容。

【評価方法】

3分の2以上出席すること。遅刻、欠席は減点の対象とする。

【テキスト】

講義時に随時、提示する。

【参考文献】

個別テーマに応じて随時、推薦する。

南島社会学

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「南島社会」を論ずるには、さまざまな視点からの分析が可能であるが、本講義では「日本復帰」「米軍基地」「死亡広告」「郷友会社会」「出稼ぎ・移民」等から「南島社会」を考える。

【授業の展開計画】

1. 講義概要・登録確認
2. 「南島」とは
3. 「日本復帰」と沖縄
4. 「日本復帰」と奄美
5. 米軍基地と沖縄
6. 米軍基地と沖縄
7. まとめ（テストまたはレポート）
8. 死亡広告にみる沖縄社会
9. 死亡広告にみる沖縄社会
10. 郷友会社会
11. 郷友会社会
12. まとめ（テストまたはレポート）
13. 「出稼ぎ・移民」と沖縄
14. 「出稼ぎ・移民」と沖縄
15. 「出稼ぎ・移民」と沖縄
16. まとめ（テストまたはレポート）

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席をかねて、リアクションペーパー（授業に関する感想、質問、要望等）を提出してもらう。他の学生の学習を妨害するような場合は、退席を要求する場合もある。

【評価方法】

出席、リアクションペーパー、レポート、テスト等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメと資料等に沿って行う。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

南島社会学 I

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島社会学Ⅱ

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島の民俗社会 I

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島の民俗社会Ⅱ

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島の民俗文化 I

担当教員 宮平 盛晃

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本南西端に位置する亜熱帯の「沖縄」には、様々な民俗文化が息づいてきた。しかし、「沖縄」という言葉でくくられる島々の習俗は決して一様ではない。講義では、村落・聖地・神役・家族・親族・年中行事・人生儀礼・祖先祭祀などをテーマに取り上げ、「沖縄の民俗文化」の様相と現状、その地域性の理解を目指す。

【授業の展開計画】

1. 村落 (1)
2. " (2)
3. 聖地 (1)
4. " (2)
5. 神役
6. 年中行事 (1)
7. " (2)
8. " (3)
9. 親族
10. 人生儀礼 (1)
11. " (2)
12. 祖先祭祀 (1)
13. " (2)
14. 家と墓
15. 妖怪

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と受講態度、最終レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジユメに沿って、スライド（写真、映像）を用いながら行う。

【参考文献】

南島の民俗文化Ⅱ

担当教員 及川 高

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島に関する民俗学の研究成果について講義する。本講義ではフォークロア（口頭伝承）の理論に焦点を合わせ、言い伝え（口承）や民話、人名や地名、都市伝説に及ぶ「語り」の考え方を体系的に紹介する。またそれを歴史史料として扱うほか、同時代の沖縄文化を理解する資料として利用するための枠組みを実践的に紹介する。期末には試験を課す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	フォークロアとは何か
3	言い伝えと史実
4	人はどこまで事実を語れるか
5	物語と意味づけ
6	伝説と権威
7	名前とは何だろうか
8	忘却と偽史
9	物語と構造分析
10	都市伝説が囁くもの
11	うわさと差別
12	イメージと感受性
13	創られる伝統
14	アイデンティティ
15	あなたは未来に何を伝えるか
16	試験

【履修上の注意事項】

- ・同講師による「民俗学概論（後期・月4）」第14回講義の内容を大幅に深めたものであるため、一部内容に重複がある。
- ・講義中、民俗学を中心に数多くの文献に言及する。関心に応じて自らそれらを手にとることを期待する。

【評価方法】

- ・テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

- ・プリントを配付する。

【参考文献】

- ・特になし

南島民俗学史 I

担当教員 及川 高

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島民俗学史Ⅱ

担当教員 阿利 よし乃

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

戦後の沖縄を対象とした民俗学的、文化人類学的な研究の理解を目指す。とくに、社会組織と民俗宗教を課題とした研究に焦点を絞り、代表的な論文を取り上げる。具体的には門中や御嶽への所属、女性神役に関する研究、または祖先祭祀の研究などである。それぞれの研究者の生涯や時代的背景、ならびに研究の流れを踏まえて実際に論文を読む。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	柳宗悦と沖縄－方言論争
3	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』①
4	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』②
5	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』③
6	馬淵東一の研究(1) - 「琉球世界観の再構成を目指して」
7	馬淵東一の研究(2)
8	外国人による沖縄研究(2) - C. アウエハントの研究『HATERUMA』
9	櫻井徳太郎の研究 - 「沖縄民俗宗教の核－祝女イズムと巫女イズム」
10	竹田旦の研究
11	仲松弥秀の研究 - 『神と村』
12	比嘉政夫の研究
13	女性に焦点を絞った門中研究
14	まとめ、研究史を振り返る－沖縄の社会組織と民俗宗教
15	社会組織と民俗宗教を連続的に捉える－八重山諸島における女性神役の継承方式を事例として
16	

【履修上の注意事項】

毎回の講義で次週取り上げる文献を配布する。その文献を予め読んで講義にのぞむこと。講義の最後10分間は感想文を書く時間とする。

【評価方法】

出席状況、講義の感想文、中間レポートと期末レポートによる。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

授業の展開計画のとおり。
 その他関連文献については講義の際に随時紹介する。

南島民俗学 I

担当教員 及川 高

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島に関する民俗学の研究成果について講義する。本講義では主に精神文化に焦点を合わせ、人生儀礼から靈魂観、神観念を中心として既往研究の知見を学史的かつ体系的に解説する。また期末には試験を課す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	人の誕生
3	擬死と再生
4	魂の行方
5	血肉と骨
6	墓と位牌
7	死者から神へ
8	まれびと
9	イニシエーションと成巫
10	憑依と託宣
11	共同体
12	霊力とタブー
13	火と水
14	怪異
15	文化圏
16	試験

【履修上の注意事項】

- ・同講師による「民俗学概論（後期・月4）」4～7回講義の内容を大幅に深めたものであるため、一部内容に重複がある。
- ・講義中、民俗学を中心に数多くの文献に言及する。関心に応じて自らそれらを手にとることを期待する。

【評価方法】

- ・テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

- ・プリントを配付する。

【参考文献】

- ・特になし

南島民俗学 I

担当教員 宮平 盛晃

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした諸先達を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追ひ、その代表的な論文の一つにふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究のエッセンスへ接近したい。

【授業の展開計画】

- 1 沖縄民俗研究史概要(1)
- 2 " (2)
- 3 柳田国男と沖縄研究(1)
- 4 " (2)
- 5 折口信夫と沖縄研究
- 6 伊波普猷と沖縄研究(1)
- 7 " (2)
- 8 比嘉春潮の沖縄研究(1)
- 9 " (2)
- 10 金城朝永の沖縄研究(1)
- 11 " (2)
- 12 仲原善忠の沖縄研究(1)
- 13 " (2)
- 14 佐喜真興英の沖縄研究(1)
- 15 " (2)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と受講態度、最終レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメに沿って、スライド（写真、映像）を用いながら行う。

【参考文献】

随時、紹介する。

南島民俗学Ⅱ

担当教員 阿利 よし乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

戦後の沖縄を対象とした民俗学的、文化人類学的な研究の理解を目指す。とくに、社会組織と民俗宗教を課題とした研究に焦点を絞り、代表的な論文を取り上げる。具体的には門中や御嶽への所属、女性神役に関する研究、または祖先祭祀の研究などである。それぞれの研究者の生涯や時代的背景、ならびに研究の流れを踏まえて実際に論文を読む。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	柳宗悦と沖縄－方言論争
3	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』①
4	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』②
5	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』③
6	馬淵東一の研究(1) - 「琉球世界観の再構成を目指して」
7	馬淵東一の研究(2)
8	外国人による沖縄研究(2) - C. アウエハント『HATERUMA』
9	櫻井徳太郎の研究 - 「沖縄民俗宗教の核－祝女イズムと巫女イズム」
10	竹田旦の研究
11	仲松弥秀の研究 - 『神と村』
12	比嘉政夫の研究
13	女性に焦点を絞った門中研究
14	まとめ、研究史を振り返る－沖縄の社会組織と民俗宗教
15	社会組織と民俗宗教を連続的に捉える－八重山諸島における女性神役の継承方式を事例として
16	

【履修上の注意事項】

毎回の講義で次週取り上げる文献を配布する。その文献を予め読んで講義にのぞむこと。講義の最後10分間は感想文を書く時間とする。

【評価方法】

出席状況、講義の感想文、中間レポートと期末レポートによる。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

授業の展開計画のとおり。
その他関連文献については講義の際に随時紹介する。

南島民俗学Ⅱ

担当教員 及川 高

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島民俗学Ⅲ

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島民俗学Ⅳ

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本史概論 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の原始・古代から近世初期までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛鳥文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本史概論Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の近世から現代までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

人間環境論 I

担当教員 佐藤 寛之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人間環境論Ⅱ

担当教員 佐藤 寛之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

比較民俗学

担当教員 -神谷 智昭7回 大城博美8回

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

比較民俗学Ⅰ

担当教員 -神谷 智昭・-大城 博美

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

授業では、大学生活で必要な技術の習得を目指し、多くの論文や本を読み、自身で考えて文章にまとめたり発表する事に挑戦する。授業前に本を読み、授業中は積極的に意見を述べること。

受講者自身が興味関心ある課題を選択し、読解力、調べる技術、書く技術、プレゼン・ディベート力（聴く・話す・伝える力）を身につけるとともに、これを遂行する計画性や思考力を養う。何より、仲間とともに共通の課題に取り組む事で、社会性を養うことを本演習の最大の目標とする。

【授業の展開計画】

1. 前期ガイダンス（講義の目的、進め方について）
- 2～14. 読解力・調べる技術・書く力を身につける
15. レポート提出
16. 後期ガイダンス
- 17～26. 調査を協力して実践する
- 27・28. 報告会（口頭での報告と質問）
- 29・30. プレゼンテーション
31. 課題の提出

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題の本を読むなど事前準備し授業に臨むこと。提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席とゼミでの発言やグループの参加など授業への取り組みと課題を評価対象とする。

【テキスト】

授業では、特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布予定。与えられた課題に対しては、事前の準備を怠らないこと。また、自身の関心に基づき多くの本を読むように努めること。

【参考文献】

課題に合わせて適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 及川 高

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で学び、研究をするための最も基本的な技術を身につけることが目的である。ここで言う技術とは、「論文や専門書を探し、読むこと」「情報を整理すること」「生産的な議論をすること」「成果をまとめること」「書くこと」「発表すること」等を指している。講義と実践を交えつつ、それらの技術の習得を目指す。またインターネット上の情報の扱いや、研究者倫理の考え方についても解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション；大学で何をするか	17	後期ガイダンス；プレゼンとは何か
2	研究とは何をすることか	18	レジュメを作る－1；基本
3	レポートの書き方－1；基本と技術	19	レジュメを作る－2；実践
4	レポートの書き方－2；構想する	20	問いを立てる－1；直感から発問へ
5	資料を探す-1;基本	21	問いを立てる－2；議論の作法
6	資料を探す-2;図書館の使い方	22	接近方法を考える
7	資料を読む-1;基本と技術	23	データを集める－1；基本
8	資料を読む-2;道具を使う(付箋とカード)	24	データを集める－2；検証
9	資料を読む-3;著者の主張をつかむ	25	プレゼンと質問の作法
10	資料を読む-4;根拠と論理をつかむ	26	報告の実践－1
11	レポートの書き方－3；設計する	27	報告の実践－2
12	レポートの書き方－4；引用と註	28	報告の実践－3
13	レポートの書き方－5；実践（1）	29	フィードバックする
14	レポートの書き方－6；実践（2）	30	まとめ
15	レポートの書き方－7；推敲と倫理チェック	31	通年のまとめ
16	前期まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・講義で言及するためEメールアドレスを取得しておくこと（ただし携帯アドレスは不可）
- ・欠席する場合は事前事後を問わず、必ず教員に連絡すること（メールでよい）。

【評価方法】

・講義と共に適宜実践的な課題を課す。その課題への取り組みに準じ、①基本的な技術の習熟度合い、②積極性と創意工夫、の2点に基づいて評価をつける。なお技術の習得を目的とした講義であるため、出席数に関しては厳格な考え方を採る。

【テキスト】

- ・資料を配付する

【参考文献】

- ・特になし

フレッシュマンセミナー

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

自らテーマを設定し、自らの頭と足で調べ、その成果となる調査報告書を作成すること。フィールドワークを実施することで、地域の歴史・文化への認識を高めると同時に、テーマ設定の動機やヒントを与える。調査や報告書作成は、前期は個人、後期はグループ（班）で取り組むことになるが、後期は内容もさることながら、発表の仕方にも創意工夫が要求される。言語力（情報収集力・整理力・論理的記述力・表現力）を養うとともに、協力共同し学ぶことの大切さとゼミ力の重要性を認識させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	グループ編成
2	文献検索の方法	18	調査研究テーマと日程の検討
3	調査の方法	19	フィールドワーク②
4	レポート作成	20	調査研究テーマ設定理由の発表①
5	フィールドワーク①	21	調査研究テーマ設定理由の発表②
6	個人テーマ設定	22	調査研究テーマ設定理由の発表③
7	テーマ設定理由と計画の発表①	23	グループ別調査研究
8	テーマ設定理由と計画の発表②	24	グループ別調査研究
9	各自調査研究 ①個別指導	25	中間報告会
10	各自調査研究 ②個別指導	26	グループ別調査研究
11	研究レポート発表①	27	発表①
12	研究レポート発表②	28	発表②
13	研究レポート発表③	29	発表③
14	研究レポート発表④	30	発表④
15	前期まとめ	31	まとめ
16	ガイダンス		

【履修上の注意事項】

- (1) 受身的や他人まかせではなく、常に知的探求心・好奇心あふれる気概をもつこと。
- (2) フィールドワークはレポート提出を義務付ける。
- (3) 前期は、個人が沖縄の歴史文化をテーマに調査研究、発表する。後期、原則3人でグループを編成、共同でテーマを設定・調査研究・発表する。いずれも文献調査、および現地（現場）調査をしっかりと行う。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 20点
 - ③前期調査レポート・発表 30点
 - ④後期調査研究レポート・発表 30点
- ①+②+③+④=100点満点で評価する。

【テキスト】

自作の資料・教材をテキストとして使用する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講座は社会文化学科 1 年生を対象としたゼミナール形式の授業である。受講生が高校までの「勉強」から卒業して、大学で「学問」していく上で必要な技能の基本を修得することが、本講座の目標である。具体的には、論理的に「書く」「読む」「伝える」ことの基本的能力を身につけた上で、問題を発見し、資料・文献を収集し、資料・文献を読解・分析し、分析した結果を表現できるように訓練する。

【授業の展開計画】

前期は、文章の作成の仕方、文献の読解の仕方、レジュメの作成歩法をの基本的な技能を習得することを目的とする。具体的には、グループワークに基づく演習を繰り返し実施する。また、自分の作成した文章や読み取った内容を、他者に伝えることを通じて、学問的なコミュニケーション能力の基礎的な部分の育成も目指す。

後期は、問題の発見と解決に関する技能の習得を目的とする。具体的には、セミナー参加者の関心にあわせてグループをつくり、グループを単位とする調査・報告・討論を実施する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ウォームアップ：アイスブレイクをしよう！	17	調査仮テーマの決定：ブレインストーミング
2	ガイダンス：ゼミでの学びを理解しよう！	18	調査仮テーマの検証：文献検索
3	文章の書き方①：4行作文にトライ！	19	調査計画書の作成①
4	文章の書き方②：4行作文にトライ！	20	調査計画書の作成②
5	文章の書き方③：4行作文の応用編	21	グループ調査①
6	文章の書き方④：4行作文の応用編	22	グループ調査②
7	図書館オリエンテーション	23	グループ調査③
8	文章の読解①：結論を読み取る（初級編）	24	グループ調査④
9	文章の読解②：結論を読み取る（中級編）	25	中間報告①
10	文章の読解③：結論を読み取る（上級編）	26	中間報告②
11	キャリアに関する特別講義	27	中間報告③
12	レジュメをつくろう①	28	最終報告会①
13	レジュメをつくろう②	29	最終報告会②
14	学外フィールドワーク	30	最終報告会③
15	前期のふり取り	31	まとめ
16	後期ガイダンス・グループ編成		

【履修上の注意事項】

- ① ゼミナール形式の授業なので、受講生の積極的な取り組みが必要である。
- ② 個人の作業とグループでの活動を組み合わせて実施することが多いので、個人の責任を果たすと同時に、他者と協力する姿勢が求められる。
- ③ 出席は毎回必ずとる。
- ④ 後期のグループ調査の詳細は、後期ガイダンスでおこなう。

【評価方法】

出席状況（15%）、前期の課題の取組と提出の状況（35%）、グループ調査の取組状況（35%）、ゼミでの発言など報告以外の時の授業への取組み（15%）の総合評価とする。

【テキスト】

特定のものは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

テーマにあわせて適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会文化学科1年次を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科の学びにおいて必要とされる基本的な技能と考え方を修得することを目的とし、そのために実践的な課題に取り組む。専門的な文章を理解する能力、伝達力をもった報告を作成する能力、テーマに対応したグループ調査を行う能力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	課題と方法についてのガイダンス①	17	テーマ設定と役割分担
2	課題と方法についてのガイダンス②	18	文献・資料調査のトレーニング①
3	文章読解のトレーニング①	19	文献・資料調査のトレーニング②
4	文章読解のトレーニング②	20	グループ調査の準備①
5	文章読解のトレーニング③	21	グループ調査の準備②
6	文章読解のトレーニング④	22	グループ調査の準備③
7	レジュメ作成と報告①	23	中間発表①
8	レジュメ作成と報告②	24	中間発表②
9	レジュメ作成と報告③	25	グループ調査のまとめ①
10	レジュメ作成と報告④	26	グループ調査のまとめ②
11	提出資料の作成①	27	グループ調査のまとめ③
12	提出資料の作成②	28	最終発表①
13	提出資料の作成③	29	最終発表②
14	提出資料の作成④	30	最終発表③
15	前期課題についての振り返り	31	後期課題の振り返り
16	後期課題についてのガイダンス		

【履修上の注意事項】

大学での学びに適応しようとする意志と、グループ作業を実践するための心構えが求められる。

【評価方法】

授業への参加姿勢および発表内容と提出課題によって評価する。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

テーマにあわせて授業中に提示する。

文化史 I

担当教員 宮里 正子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 社会コースは選択科目・受講年次は2年

【授業のねらい】

沖縄の歴史を、先史時代か近・現代までの発掘品初め絵画や彫刻、工芸（漆器、染織、陶器）などの造形をとおして学ぶ。特に、造形の背景にある政治や経済、社会構造などと重ね合わせながら、造形意匠の持つ意味を考えていく。また、沖縄と歴史的に関わったアジア諸国の造形との比較検証を通して、アジアの文化を学ぶきっかけとする。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス 造形からみる沖縄の歴史
 第2回 先史時代の沖縄 沖縄のルーツと南島文化
 第3回 " 貝の造形
 第4回 古琉球① 沖縄の土器文化と輸入陶磁器
 第5回 " ② 沖縄の世界遺産にみる石の造形と浦添ようどれの造形
 第6回 " ③ 交易国家琉球の外交製作から見える造形文化—中国明・清王朝①—
 第7回 " ④ " " ②—
 第8回 " ⑤ " —朝鮮王朝—
 第9回 " ⑥ " —東南アジア—
 第10回 " ⑦ 尚真王代の造形
 第11回 文化と戦争 沖縄の地上戦をとおして、平和と文化を学ぶ。DVD「集団疎開児童の証言」
 第12回 古琉球⑧ 神女ノロ（祝女）の造形
 第13回 古琉球～近世琉球 薩摩・島津氏の琉球侵略とその背景
 第14回 近世琉球 「江戸上り」にみる造形文化
 第15回 琉球文化の記録 鎌倉芳太郎と沖縄の文化

【履修上の注意事項】

- ①出欠及び遅刻状況
 ②テスト・レポート・小論評価

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化史Ⅱ

担当教員 宮里 正子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 社会コースは選択科目・受講年次は2年

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学概論

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」というキーワードを基礎としながら、世界各地の諸社会および総体としての人類社会について、その多様性と共通性を明らかにしていこうとする学問分野である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化」とは何か？——人類学と「異文化」理解
3	文化人類学の方法論——「社会・文化」を読み解くために
4	映像鑑賞
5	家族と親族（1）——親族研究の基礎と人類学
6	家族と親族（2）——キンドレッド／出自／婚姻
7	贈物のヒミツ——贈与・交換の原理と「社会」
8	認識／コミュニケーション／儀礼
9	「死」の扱い方と宗教——究極問題へのアプローチ
10	映像鑑賞
11	政治と権力——人類社会における諸政治形態と権力
12	身体とジェンダー——オトコ（△）であること、オンナ（○）になること
13	自然／環境／資源化——人類と自然・環境との関係
14	アイデンティティ／民族／ナショナリズム
15	まとめ——「人類社会理解」への果敢な挑戦
16	筆記試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30％）、筆記試験（70％）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（感想、コメント、質問）の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（授業でレジュメおよび資料を配布）。

【参考文献】

石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂
 米山俊直(編)1995『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社

文化人類学概論Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学概論Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の普遍性と多様性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か？——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球／生物／人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」・民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事、『南太平洋の人々』
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——「社会関係の基礎」としての「親族」
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編 『音楽の正体』
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造／歴史／主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——人類学理論と人類社会・文化の理解
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。私語厳禁。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（70%）

授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。
石川栄吉ほか（編）1995『文化人類学事典』弘文堂。

文化人類学史 I

担当教員 石垣 直

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論およびその歴史について基礎的な理解を得ることにある。本講義の基礎となる「文化人類学概論」（社会文化学科・必修科目）では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の普遍性と多様性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か？——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球／生物／人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」・民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——「社会関係の基礎」としての「親族」
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編 『音楽の正体』
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造／歴史／主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——中国文化と現代社会
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。私語厳禁。

【評価方法】

出席（30％）、筆記試験（70％）

授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の授業でレジюмеあるいは資料を配布する）

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂
 石川栄吉ほか（編）1995『文化人類学事典』弘文堂
 バーナード、A. 2005『人類学の歴史と理論』明石書店

文化人類学理論

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義の基礎となる「文化人類学概論」（社会文化学科・必修科目）では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の普遍性と多様性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か？——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球／生物／人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」・民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事、『南太平洋の人々』
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——「社会関係の基礎」としての「親族」
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編 『音楽の正体』
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造／歴史／主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——人類学理論と人類社会・文化の理解
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。私語厳禁。

【評価方法】

出席（30％）、筆記試験（70％）

授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。
石川栄吉ほか（編）1995『文化人類学事典』弘文堂。
バーナード、A. 2005『人類学の歴史と理論』明石書店

平和運動史

担当教員 西岡 信之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今年4月の統一地方選後、安倍政権は「いつでもどこでも戦争ができる」ための戦争関連法案を今国会で成立させようとしています。さらに憲法改悪もスケジュールに入りました。もはや「戦後」ではなく「戦前」の時代です。「戦中」にしてはなりません。次世代の若者が当事者となります。今こそ、過去の戦争に学んで、平和な社会をとり戻すための取り組みが求められています。講義では、現在の安倍政権の戦争政策を理解し、過去の平和運動の歴史を検証する中で、平和な社会づくりを展望します。また格差・貧困問題についても考えます。

【授業の展開計画】

すべての授業を通じて、質問・意見や感想を交流し、平和について考えます。講義は、DVDなどの映像を活用して、わかりやすい講義をめざしています。

週	授 業 の 内 容
1	平和学入門ガイダンスー 今こそ、軍事力ではなく平和を
2	戦争国家づくりをめざす安倍政権ー ストップ戦争への道
3	特定秘密保護法ー レーン・宮沢事件から問われること
4	海兵隊化をめざす自衛隊ー 南西諸島防衛のいま
5	武器輸出禁止見直しー 「死の商人」と行く安倍外交
6	ヘイト・スピーチとは何かー 「嫌韓」「反中」を越えて
7	辺野古・高江の闘いー 新基地建設を許さず
8	フクシマの現実ー 隠された甲状腺がん多発問題
9	沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会ー 運動の礎を次世代に
10	日本軍「慰安婦」問題とは何かー 今こそ謝罪と賠償を
11	朝鮮人軍夫問題とは何かー もう一つの沖縄戦
12	靖国神社とは何かー 戦前回帰を許さない
13	格差・貧困のない社会をー ブラックバイト問題とは何か
14	格差・貧困のない社会をー ブラック企業問題とは何か
15	格差・貧困のない社会をー 奨学金返済問題とは何か
16	補講等、調整日

【履修上の注意事項】

スマート・フォンやタブレットなどの使用、机上配置も認めません。カバンの中に収納していただきます。私語や携帯電話の使用も禁止します。また大幅な遅刻や早退、途中退席などは、授業評価姿勢に課題があると評価します。

【評価方法】

コメント用紙に講義に関しての感想、意見、質問などを毎回書いていただきます。それによって出欠状況と授業参加姿勢を見ます。期末にレポートを提出していただきます。出席状況、授業参加姿勢、レポートで評価を行います。試験は基本的に行いません。

【テキスト】

特に指定しません。
毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考文献】

『なぜ、いま ヘイト・スピーチなのか』前田朗編著、(三一書房)。
その他、講義の中でその都度紹介する。

平和学概論

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していくことにしたい。いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、一方では世界に視野を広げ、他方で身近な暴力性を問い直すことによって、平和学の広がりや理解することをめざしている。そして、社会的な取り組みの場に足を運び何かを感じ取ることも、平和学の重要な要素である。レポートの課題を通して、そのきっかけをつかむようにしたい。

【授業の展開計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 構造的暴力の視点
- 第3回 戦争と国家① 愛国心の形成
- 第4回 戦争と国家② 総力戦の世紀
- 第5回 戦争と国家③ メディアと世論
- 第6回 戦争と国家④ 隠された被ばく
- 第7回 戦争と国家⑤ 軍産複合体
- 第8回 沖縄の基地を考える① 難民という視点
- 第9回 沖縄の基地を考える② 冷戦の負の遺産
- 第9回 沖縄の基地を考える③ なぜ沖縄なのか
- 第10回 沖縄の基地を考える④ 軍隊と性暴力
- 第11回 沖縄の基地を考える⑤ 分断される地域
- 第12回 人々の経験をつなぐ① 韓国にとっての戦後
- 第13回 人々の経験をつなぐ② 原発と地域
- 第14回 人々の経験をつなぐ③ 貧者の徴兵制
- 第15回 人々の経験をつなぐ④ 「安楽」への全体主義
- 第16回 学期末テスト

【履修上の注意事項】

小レポート作成のために、授業日以外の取り組み（1日）が必要となることを承知しておくこと。

【評価方法】

学期末テスト50%、小レポート25%、参加姿勢25%

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。

【参考文献】

石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年）
最上敏樹『いま平和とは』（岩波新書、2006年）

平和学 I

担当教員 一玉城 福子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

平和学Ⅱ

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

平和思想

担当教員 安良城 米子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄は日本国内でも世界情勢の変化を最も受けやすい位置にある。そこで平和に対する思考、意識はその社会を安定的、発展的に成立させる最も基礎となる要因である。本講義では、まず琉球・沖縄の平和思想をその歴史から紐解く。1800年代の異国船の航海記に見る琉球、明治政府による軍隊配備に抵抗する琉球、そして戦後沖縄の平和運動にみる非暴力的抵抗の思想と行動の中から、沖縄の平和思想を見出したい。同時に、マハトマ・ガンディーとマーティン・ルーサー・キングの「非暴力」思想と手段を概観する。平和構築の対処に非暴力の思想と手段がいかに現実的で効果的かを明らかにする。

【授業の展開計画】

琉球に來航した異国船への琉球の人びとの対応は、あくまでも非軍事的対応であった。沖縄戦後においては圧倒的な軍勢力を有する米軍との折衝や抵抗の際「非暴力」での抵抗であったことなどを概観する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	19世紀の異国船の航海記から—その対応と琉球
3	19世紀後半の琉球国併合期の琉球社会の動向
4	徴兵忌避と救国運動
5	日本軍部の資料にみる沖縄県民観
6	1950年代「土地闘争」—阿波根昌鴻さんを通して
7	沖縄の平和運動にみる非暴力抵抗
8	中江兆民の思想—『三酔人経綸問答』から
9	非暴力とは
10	欧米の文献にみる琉球①—欧米のモデルとされた「平和国家」琉球
11	欧米の文献にみる琉球②—『リリアン・チン書簡』から
12	マハトマ・ガンディーの非暴力行動と思想
13	マハトマ・ガンディーの非暴力行動と思想
14	マーティン・ルーサー・キング牧師の非暴力行動と思想
15	マーティン・ルーサー・キング牧師の非暴力行動と思想
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話など周囲に迷惑のかかることは慎む。

やむを得ず欠席する場合、事前にあるいは欠席した翌週に、その旨を届け出用紙に記入し担当教員（安良城）に提出すること。

【評価方法】

毎回出席用紙を配布し講義に関してのコメントを書いてもらう（30%）。それにより出席と授業参加姿勢をみる。レポート提出（40%）と期末試験（30%）を行い総合的に判断し評価する。

【テキスト】

毎回講義のレジュメと資料を印刷して配布する。DVDなどの視覚教材も用いる。

【参考文献】

『ガンディー』講談社、『琉球救国運動』後田多敦著 Mugen、『異国船来琉記』須藤利一訳 法政大学出版社、『米軍と農民』阿波根昌鴻著 岩波書店、その他、その都度紹介する。

平和と法

担当教員 高良 鉄美

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

平和・社会学特殊講義 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マスコミ論

担当教員 比嘉 要

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

民俗学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

民俗学概論

担当教員 及川 高

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

主に日本民俗学の知見に即して、民俗学的なものの見方・考え方について解説する。なお本講義では沖縄県に限らず、日本各地や一部東アジア諸国の事例にも幅広く言及する。テーマごとに1回完結の内容で講義を進めていくが、適宜以前の講義内容にも言及し、生産技術と社会組織、精神文化の複合について理解を深めていく。なお最後に講義内容に則った試験を課す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	民俗学とはどんな学問か
2	地域共同体；村落とは何か
3	親族と婚姻；財としての女性
4	人生；生まれ育って死ぬこと
5	死者と先祖
6	宗教者；霊威と権力
7	俗信；行為としての宗教
8	食べる；嗜好の文化
9	農耕；米と芋
10	海と川；魚を獲った人々
11	山；殺すことと作ること
12	都市と商業
13	非日常；祭りと災害
14	口承文芸；民話から都市伝説まで
15	東アジア民俗学
16	試験

【履修上の注意事項】

多岐に渡るトピックを扱う。日本史の基本的な知識を備えていることが望ましい。

【評価方法】

- ・テストを中心に、講義への参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

- ・プリントを配付する。

【参考文献】

琉球・沖縄史入門

担当教員 上原 4 回、田名 4 回、吉浜 4 回、藤波 3 回

対象学年 1 年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では4名の担当教員がオムニバス形式で、沖縄の先史古代から近世、近現代までの枠組みの中から、各テーマを挙げて紹介し、琉球・沖縄の独自性や特質性を理解するとともに、その見方、考え方を学んでもらう。また、講義は今後の専攻ゼミを選択する興味、関心の素材提供として考えてもらう。

【授業の展開計画】

昔と今の発掘調査
沖縄考古学の誘い
沖縄人のルーツ
先史時代のレシピ
太陽の子と天女の子
護佐丸VS阿麻和利
沖縄の墓はデカイ
シーサーはいつ屋根に登ったか
沖縄戦の記憶
ゼロからのスタート
ネコとネズミ
沖縄を返せ
琉球王国から沖縄県へ
沖縄と大和とのはざま
沖縄をはなれたウチナンチュ

【履修上の注意事項】

遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

各担当教員ごとに理解度テストを行う。

【テキスト】

講義毎に資料を配布する。

【参考文献】

講義毎に紹介する。

琉中交流史

担当教員 田名 真之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球と中国（明清朝）との関係を中心に古琉球から近世の対外関係について考える。『歴代宝案』や『評定所文書』、『冊封使録』などの史料を通して、冊封、進貢、貿易、学問、教育、芸術等々、琉球・中国間の諸々について見ていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論、概要
2	冊封① 冊封体制
3	冊封② 冊封使録
4	進貢① ー進貢船・使節ー
5	進貢② ー貿易ー
6	漂流・漂着① ー送還体制ー
7	漂流・漂着② ー琉球から中国へー
8	漂流・漂着③ ー様々な漂流ー
9	冊封使の渡来① ー歓待の準備ー
10	冊封使の渡来② ー儀式・評価(貿易)ー
11	留学生① ー官生〈国費留学生〉
12	留学生② ー勤学〈私費留学生〉
13	御後絵の世界 ー国王の肖像画ー
14	琉球処分① ー処分の経過ー
15	琉球処分② ー脱清人の嘆願書ー
16	期末試験

【履修上の注意事項】

史料(候文や漢文)を読むことが多いので、予習復習を心がけること。授業には質問その他積極的に関わること。

【評価方法】

出欠及びテストにより評価する。

【テキスト】

プリント、資料を配付する。

【参考文献】

豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003）、安里進ほか『沖縄県の歴史』（山川出版社、2004）。その他の適宜紹介。

領域演習

担当教員 前期：石垣 直 後期：及川 高

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習（ゼミ）の目的は、民俗学ならびに社会・文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「フィールド」（実地調査、参与観察）を通じて、対象社会・テーマ・トピックに対する理解を深め、その調査・研究成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法を学ぶことにある。

今年度前期は、主に文化人類学の視点から、文献検索、文献研究、調査・研究方法、周辺アジア地域の諸文化について学ぶ。後期は、主に民俗学の視点から、フィールドワークの手法、資料・データ収集、フィールドデータの記録・統合、民俗調査報告書の作成方法などを学ぶ。

【授業の展開計画】

今年度は、石垣（文化人類学）が前期を、及川（民俗学）が後期を担当する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	文化人類学とは何か	18	民俗学者がフィールドですること
3	文化人類学研究とフィールドワーク	19	現地資料の収集方法——市町村誌・地図・統
4	レジュメ作成方法・発表方法	20	問いを立てる——何が民俗学の対象となるか
5	テーマ設定・文献研究、レポート・論文作法	21	調査項目を作る（1）——何を調べるか
6	文化人類学関連文献の輪読・文献研究（1）	22	調査項目を作る（2）——誰に話を聞くか
7	文化人類学関連文献の輪読・文献研究（2）	23	フィールドへの入り方
8	文化人類学関連文献の輪読・文献研究（3）	24	フィールドノートの書き方
9	アジア関連文献の輪読・文献研究（1）	25	景観を観察する
10	アジア関連文献の輪読・文献研究（2）	26	儀礼を観察する
11	アジア関連文献の輪読・文献研究（3）	27	様々な現地資料——写真・民具・文書
12	調査計画の策定（1）	28	インタビューの方法
13	調査計画の策定（2）	29	フィールドノートのまとめ方
14	質問項目の作成（1）	30	データを統合する——集団調査と情報カード
15	質問項目の作成（2）	31	民俗調査報告書を書く
16	まとめ（予備日）		

【履修上の注意事項】

通常の講義科目とことなり、演習では各ゼミ生の主体的参加が求められる。文献研究やゼミでの発表・質疑応答そしてフィールドワークを通じて、身の回りのあるいは他地域の民俗社会・文化を調査・研究する基本的な姿勢と作法を身につけてほしい。

【評価方法】

出席および演習への参加姿勢を重視し、総合的に評価する。教員によっては、期末試験あるいは課題レポート（調査報告）を課す場合がある。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

石垣：演習の中で適宜紹介する。

及川：上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館

領域演習

担当教員 鳥山（前期 8 回・後期 7 回）、澤田（前期 7 回・後期 8 回）

対象学年 2 年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会文化学科 2 年次の「社会・平和領域」の学生を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科で取り組む調査・研究の基礎を構築するために、専門用語・概念の理解および専門的な調査の方法を身につけることを目的とする。

【授業の展開計画】

前期の演習は、文献の輪読と報告を中心に進める。
以下のテーマに関連する文献を取り上げる。

- (1) 沖縄戦から 70 年の節目に問われていること
- (2) 戦争体験の記録化と継承の課題
- (3) 軍事基地と沖縄社会との関係
- (4) 沖縄・アジアからみる「近代」とは
- (5) 沖縄・アジアからみる家族とジェンダー
- (6) 沖縄・アジアからみる移民とエスニシティ
- (7) 沖縄・アジアからみる労働のいま
- (8) 沖縄・アジアからみる軍事と女性
- (9) 沖縄・アジアからみる「人口問題」

後期の演習は、グループごとの調査と報告を中心に進める。
調査テーマは、前期に輪読した文献に関連する事象を中心としながら、受講者の問題関心をふまえて決定する。

【履修上の注意事項】

学科の専門的な学びに取り組む積極的な姿勢が求められる。

【評価方法】

授業への参加姿勢と課題の報告内容によって評価する。

【テキスト】

テーマに応じて複数のテキストを授業中に提示する。

【参考文献】

関連する文献を適宜提示する。

領域演習

担当教員 前期：田名真之 後期：藤波潔

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球・沖縄史について、古琉球から近世・近代に到る概要を学ぶ。基本的な文献や史料に関する知識を養い、史料収集の方法を学ぶ。琉球と周りの国々や地域とどのように関わってきたのか、東アジアの世界で琉球はどのようなポジションに位置する存在だったのか、その変遷も含めて考える。また今の沖縄がどのようにして築かれてきたのかについても併せて考える。

【授業の展開計画】

通年科目の後期分の授業では、以下のことを学ぶ。琉球・沖縄史の前近代史に関して、①基本史料・文献について ②主要論点や定説などについての主要論文について ③主要論文などの検索方法について ④主要史料・論文の講読である。併せて、基本史料・文献所蔵機関（本学図書館、県立図書館、県立博物館など）での資料の検索、閲覧を行い、またフィールドワークを通して歴史の現場の体験させる。

週	授 業 の 内 容
1	琉球・沖縄史の概要 I
2	〃 II
3	〃 III
4	フィールドワーク（森川、西森御嶽）
5	基本史料・文献（古琉球）
6	〃（近世 I）
7	〃（近世 II）
8	〃（近現代）
9	フィールドワーク（浦添城、伊波普猷墓）
10	基本的史料・文献の講読 I
11	基本的史料・文献の講読 II
12	フィールドワーク（伊祖の高お墓）
13	主要論文の講読 I
14	主要論文の講読 II
15	主要論文の講読 III
16	3年次の取り組みについて

【履修上の注意事項】

論文講読やフィールドワークでの解説資料の作成など、担当者だけでなく、全員が参加して授業を進めるよう努めること。

【評価方法】

出席状況や発言など授業参加の姿勢、講読、報告資料の内容など総合的に判断する。

【テキスト】

プリントを配付する。

【参考文献】

適宜紹介する。

領域演習

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学はモノを通して学ぶ学問である。したがって実際に発掘することによって、まず調査の方法〈測量、層位の識別、遺物の検出、データの整理法、図版作成など〉について学ぶ。しかし、遺跡の発掘は、一種の遺跡破壊行為でもある。一度発掘してしまうと、遺跡は再び元には戻らない。このことを十分認識し、発掘に際しては周回の計画と、細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうすることによって、報告書の意義を認識してもらう。

【授業の展開計画】

第1～5週 考古学の考え方を把握してもらう。
第6～10週 沖縄の先史文化について概説する。
第11～15週 土器、石器、骨器、貝器、陶磁器などの人工遺物について紹介する。
第16～18週 遺物の洗浄、註記、分類、集計を行う。
第19～25週 遺物の観察、実測、トレースを行う。
第26～30週 図版の作成とともに記述を行い、発掘調査報告書を仕上げる。

【履修上の注意事項】

- 1、発掘調査に必ず参加する。
- 2、実習は技術の習得に力点を置くので、講義時間以外にも遺物の整理に従事する。

【評価方法】

- 1、レポートを数回、随時に課す。
- 2、遅刻、欠席は減点の対象とする。

【テキスト】

藤本 強 『考古学を考える』雄山閣出版 1996

【参考文献】

講義において随時紹介する。

歴史学概論

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科 1 年時を対象とした必修科目であり、学科専門科目の基礎教育科目と位置づけられている。基礎教育科目は、専門分野における学問体系及び調査・研究技能の基本を理解することを目的としている。そこで、本講義では、学問としての歴史の基本を習得するために、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をどのように認識してきたのかについて考察する。また、歴史認識をめぐる摩擦という現代的課題について、その問題の所在を、幾つかの事例に基づいて把握する。これにより、歴史を学ぶことにおける人間と社会の関係を理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意義を考えられるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？
3	社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）
4	社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）
5	社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）
6	社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）
7	社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）
8	社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）
9	社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）
10	社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）
11	社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナル派）
12	現代の「歴史問題」①（ヨーロッパの事例）
13	現代の「歴史問題」②（アジアの事例）
14	現代の「歴史問題」③（「沖縄」の事例）
15	現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は社会文化学科 1 年次対象の必修科目であり、基礎科目として位置づけられている。
- ② 3 年次以上の学生については、旧カリの「歴史学概論」の読替科目として設定されている。
- ③ 他学部・他学科の学生でも、歴史学に興味のある意欲を持った学生であれば歓迎する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

- ①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年、③ E. H. カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらない？』（岩波書店、2007年）、他